

行政常任委員会

令和 3 年 3 月 1 6 日（火）

午前 9 時 5 7 分開 会

○南委員長 おはようございます。

連日お疲れのところ、ただいまより行政常任委員会を開催いたします。

今日は、水産農林、商工観光、できたら建設まで進みたいと思いますので、御協力をお願いいたします。

それでは、水産農林課所管の議案第 1 6 号、令和 2 年度尾鷲市一般会計補正予算（第 1 1 号）の説明を求めます。

○芝山水産農林課長 おはようございます。よろしくをお願いいたします。

議案第 1 6 号、令和 2 年度尾鷲市一般会計補正予算 1 1 号の議決について、補正予算書及び予算説明書に基づき、水産農林課に係る予算について御説明いたします。

まず、歳出から御説明をいたします。

補正予算書 1 6 ページ、1 7 ページでございます。通知をいたします。

（「歳入」と呼ぶ者あり）

○芝山水産農林課長 あっ、ごめんなさい、まず歳入でございます、すみません。

歳入でございます、1 6 ページ、1 7 ページをお願いいたします。

1 5 款県支出金、2 項県補助金、4 目農林水産業費県補助金、補正前の額 7, 9 1 3 万円に対し、2, 0 2 7 万 7, 0 0 0 円を減額し、5, 8 8 5 万 3, 0 0 0 円とするものです。

内容は、1 節農業費補助金 1 4 万 9, 0 0 0 円の減額で、中山間地域等直接支払事業補助金は事業費の確定による減額、また、ため池等整備事業費補助金 1 0 万円の減額は、今年度、国の指示により、ため池が氾濫したと想定した場合の被害想定マップの作成委託を県の 1 0 万円の定額補助を受けて行う予定でありましたが、本市では県に登録されているため池は 2 か所ありますが、いずれも小規模で軽微なものであることから、県にて一括対応していただけることとなり、歳出歳入共に皆減するものでございます。

2 節林業費補助金 1, 7 2 7 万 8, 0 0 0 円の減額は、森林環境創造事業補助金ほか、いずれも事業費の確定による減額でございます。

このうち、農山漁村地域整備交付金 1, 5 2 0 万円の減額につきましては、これ

は林道や林道に架かる橋梁を整備する交付金事業でございますが、今年度は、林道口窄線と矢ノ川線に架かる橋梁２本、それと大根須賀利線ののり面修繕工事の３事業を予定しておりましたが、補助金配分が減少したことに伴い、本市では林道口窄線の橋梁整備の１事業のみの施工となったことによるものでございます。

３節水産業費補助金２８５万円の減額は、今年度実施しました行野浦漁港の長寿命化に伴う水産基盤ストックマネジメント事業の事業費確定による補助金の減額でございます。

１８ページ、１９ページをお願いいたします。

１６款財産収入、１項財産運用収入、１目財産貸付収入、補正額２万４,０００円の増額は、農林関係土地貸付料２万４,０００円で、市有林の貸付山制度で２.４ヘクタールの貸付契約をしている方が契約更新されたことによる貸付料の増額でございます。

２項財産売払収入、１目不動産売払収入、補正前の額８,９８５万５,０００円に対し、９９８万５,０００円の減額補正で、このうち、市有林の主伐による立木売払収入分として、当初１,２２８万５,０００円を予定していましたが、コロナ禍による市場のだぶつきなどから主伐事業を縮小したことに伴う減額として、９９８万５,０００円の減額となったものでございます。

次、２０ページ、２１ページをお願いいたします。

２０款諸収入、５項雑入、１目雑入につきましては、補正前の額９,１９５万３,０００円に対して、４１９万９,０００円を減額するものでございますが、そのうち当課に係るものとしては、９節農林水産業費雑入１０万７,０００円の増額で、これは中部電力の送電線による支障木の補償によるものでございます。

続きまして、歳出について御説明いたします。

予算書４２、４３ページでございます。通知をいたします。

５款農林水産業費、１項農業費、２目農業振興費、補正前の額６８３万４,０００円に対し、１１３万１,０００円の減額補正でございます。これは、一般振興事業としての、コロナ禍の影響により地域おこし協力隊の着任が１０月から１月になったことによる報償費と活動補助金の減額、同じく、コロナ禍による東海農政局等への出張の取りやめによる旅費、駐車場代金の減額でございます。

中山間地域等直接支払事業は、事業費の確定による減額でございます。

３目農地費１１万３,０００円の減額は、歳入での減額で御説明させていただきました、ため池浸水想定区域図作成業務委託料の減額でございます。

2 項林業費、1 目林業総務費、補正前の額 1,587 万 8,000 円に対し、41 万 9,000 円を減額するもので、これは、林業活性化推進費としての営業活動等の出張の取りやめによる旅費の減額と、次のページをお願いいたします。

林業一般経費としての出張の取りやめによる旅費、有料道路通行料の減、需用費 4 万 5,000 円の減額は、ヒノキフェスタの中止による木工体験教室の消耗品の減額でございます。

続きまして、2 目林業振興費、補正前の額 5,473 万 3,000 円に対し、220 万 1,000 円を減額し、5,253 万 2,000 円とするものです。

財源内訳は、国県支出金 131 万 5,000 円の減額、一般財源 88 万 6,000 円の減額でございます。

内訳は、7 節報償費 28 万円は、ニホンザル、イノシシ、ニホンジカの捕獲に係る報償費の確定による減額、8 節旅費 30 万 1,000 円の減額は、森林経営管理事業、これは森林環境譲与税を活用した森林所有者の境界明確等を行う事業での所有者との打合せ等の旅費の減額、12 節委託料 162 万円の減額は、森林環境創造事業、森林経営管理事業、みえ森と緑の県民税連携枠事業での、それぞれの事業費の確定による委託料の減額でございます。

3 目林道開設改良費、補正前の額 5,867 万 2,000 円に対し、2,758 万円の減額で、財源内訳は、国県支出金 1,520 万円の減、地方債 1,250 万円の減、一般財源 12 万円の増でございます。

内訳は、12 節委託料は、443 万 9,000 円の減は、歳入の減額で御説明いたしました、林道や橋梁の整備を行う農山漁村地域整備交付金事業における事業規模の縮小に伴う測量設計委託料の減額、14 節工事請負費 2,314 万 1,000 円の減額は、一般林道整備事業における林道整備の事業費確定に伴う減額 12 万 7,000 円と、次のページをお願いいたします。

農山漁村地域整備交付金事業での事業規模縮小に伴う減額 2,301 万 4,000 円でございます。

3 項山林事業費、1 目管理費、補正前の額 4,344 万 6,000 円に対し、57 万 8,000 円を減額するものでございます。

主な内容は、市有林管理事業での山林作業員、会計年度職員 4 名分の作業用車両の借上料の減と、FSC グループ認証負担金 10 万円の減額は、本市と紀北町とのグループ認証に紀北町内の林業事業所が加入してくれたことによる負担金割当ての減額となります。

2目保育費、補正前の額1,716万5,000円に対し、1,134万1,000円を減額し、582万4,000円とするものです。

財源内訳は、国県支出金2万5,000円の減額、一般財源1,131万6,000円の減額です。

内容は、歳入の売払収入の減額で御説明させていただきました早田地区での主伐規模を2.5ヘクタールから1ヘクタールに縮小したことに伴う主伐委託料の減額1,122万1,000円と、森林環境保全直接支援事業は、苗の植付けや下刈りに対する国の68%の補助事業ですが、そのうち下刈り業務委託をしたものでございますが、その事業費確定による委託料16万6,000円の減額でございます。

21節補償金12万円の減額は、主伐の際にN T Tの電線を切ってしまうように移転させるための補償金ですが、施業面積の縮小により減額したものでございます。

3目植付費、補正前の額939万円に対し、111万8,000円を減額するもので、財源内訳は、国県支出金73万8,000円の減、一般財源38万円の減でございます。これは、先ほどの森林環境保全直接支援事業における市有林の植付け補助の事業費確定による減額でございます。

次のページをお願いいたします。

5款農林水産業費、4項水産業費、2目水産振興費、補正前の額1,566万9,000円に対し、230万9,000円を減額するものです。

財源内訳は、その他特定財源80万6,000円の減額、一般財源150万3,000円の減額でございます。

主な内容は、12節委託料51万8,000円は、尾鷲市漁業体験教室がコロナ禍の影響により中止となったことによる外湾漁協等への委託料の減額、18節負担金補助及び交付金172万1,000円の減額は、後継者育成における早田漁師塾が中止となったことに伴う漁師育成機関運営支援事業補助金21万8,000円の減額と、水産振興補助金130万8,000円の減額は、尾鷲市海面養殖振興協議会補助金と産地協議会強化支援事業補助金は魚まつりが中止となったことによる補助金の減額、尾鷲市漁業近代化資金利子補給金は融資額確定に伴う減額、外国人漁業技術研修事業補助金は、研修生の受入れ漁船が受入れ定員に達しており、年度内に欠員となることがなかったことから新規受入れがなかったことに伴う減額でございます。水産多面的機能発揮対策事業での負担金の減額は、藻場造成などに対する事業量の減に伴う減額でございます。

4 目漁港建設費 5 7 0 万の減額は、水産基盤ストックマネジメント事業における行野浦漁港の長寿命化に伴う工事請負費の事業費確定による減額でございます。

次に、債務負担行為補正について御説明をさせていただきます。

補正予算書 6 ページをお願いいたします。通知をいたします。

6 ページ、第 3 表、債務負担行為補正の一番下段でございます。

昨年 6 月の臨時議会にて御承認をいただきました、コロナ禍における主に養殖事業者の経営維持安定に資する資金の借換えに対する利子補給金と、それに伴う保証料の補助金につきましては、令和 2 年度分の借換えにつきましては、国が当初の 5 年目までを全額負担するとしており、6 年目からは県と該当する市町で負担していくとした旨の債務負担行為をお認めいただいておりますが、幸い、本市におきましては、令和 2 年度内にこの借換えを行った事業者がいなかったことから、当該債務負担行為、令和 2 年度分の受付になりますが、この債務負担行為を廃止させていただくものでございます。

なお、この後の新年度予算の御審議の際には、令和 3 年度分の借換えがあった場合の同様の保証に対する債務負担行為を上げさせていただいておりますので、また後ほど御説明をさせていただきたいと思っております。

以上で令和 2 年度第 1 1 号補正予算に係る説明を終わらせていただきます。よろしく御審議いただき、御承認賜りますようお願い申し上げます。

○南委員長 ありがとうございます。

令和 2 年度の一般会計補正予算の説明は以上でございます。

御質疑のある方。

○小川委員 先ほどの補正予算書の 6 ページ、債務負担行為の廃止なんですけれども、結構、養殖業者とか、今結構困っていてというのがあるんですけれども、これって銀行でもありましたよね、よく似たやつ。そっちのほうを優先して、こっちのを借りなかったというふうに理解すればよろしいですか。

○芝山水産農林課長 はい、そのとおりでございます。

既存の、いつも事業経営、経営運営されているときに、借入金などを借りながら事業されているんですけれども、そちらのほうの借入れを優先して継続しておりますので、この経営補助安定資金につきましては、そういう借換え、借り入れる部分がなくなってしまったときに最後にこの資金を借りて、借換えをして運営していくというようなふうに聞いておりますので、通常の経営ができる状態でしたら今までどおりの既存の銀行等の商品を使いながら経営をしていくということですので、今の

ところ、幸い尾鷲市ではこの資金を借りるまでには至っていないというふうな報告を受けております。

○小川委員 ということは、系統機関で借りるほうが借りやすいので、これを残した。その系統機関で借りるのを残して、先に銀行で手当てをしたというふうに理解すればいいですか。

○芝山水産農林課長 はい、そのように聞いております。

○南委員長 他にございませんか。

○三鬼（和）委員 この26、27ですけど、歳入のほうにはあるんですけど、市有林保育事業で木伐を小さくしたというか、ほとんどしなかった状態なんですけど、実際やっぱりしなかった、やらなかったということを、コロナ禍の中で市場としてはどうだったんですか。その辺は見極めたんですか。

○芝山水産農林課長 通常、主伐、一番に出していくのは、一般的な林業でいきますと年明け前、1月、2月ぐらいに出していく材が多いんですけども、逆に、市有林の場合、木材市場や業界の皆さんから求められているのは、一番材が薄い時期で、どちらかといったら夏場の、一般的には皆さんが出しにくい時期に、補うような形で出してほしいという要望が以前からありまして、例年、そのような時期に市有林も出してはいるんですけども、ちょうどその時期にこのコロナ禍によりまして、林野庁と県のほうからも、ちょうど市場に、市場の不安感が一番高いときでございまして、材がちょっと市場にだぶつき出したということで、公共の材についてはできる限り先送りをするとか、控えることができるのであれば控えたほうがいいのではないかというような通達もあったことから、一応、我々としまして、木材市場とも相談して時期を見送ってきたということでございます。

○三鬼（和）委員 ざっくりばらんに言えば、民間が、民有林が市場に出ている間は公共林は出さずに、価格とか変動とかを抑えるというのが主目的で、行政としては主伐を取りやめた。国、県の指導に基づいてやめたと理解したらいいですか。

○芝山水産農林課長 はい、そのとおりでございます。

今年度の主伐につきましては、ちょうどこの2月に、1ヘクタール分に縮小はしたんですけども、一応実施することができましたので御報告いたします。

○奥田委員 今の関連なんですけど、主伐事業、その2.5ヘクタール、1ヘクタール縮小したというんですけども、結果的にこの収支はどうなった。ちなみにちょっと教えてください。

○芝山水産農林課長 ちょっと数字的なものまでは、今すぐ、ごめんなさい、出

ないんですけれども、どうしてもやっぱり赤字になってしまいますので、規模が縮小したことで、幸いなんですけれども、赤字の金額も縮小にはなっております。

（「金額が分からん」と呼ぶ者あり）

○南委員長 課長、今の主伐の2.5から1ヘクタールになった、そのデータの資料はないの。

○芝山水産農林課長 今ちょうど、切って先日15立米分だけ木材市場のほうに出せたんですけれども、残り、まだ200立米近くありますので、それはこの3月末ぐらいの市場出しになりますので、ちょっとまだ金額のほうは確定していないという状況です。

○奥田委員 また、それ、金額が分かったら教えてくださいね。

それで、補正予算書44、45のところかな、みえ森と緑の県民税連携枠事業で、委託料107万1,000円減額になっているでしょう。この森と緑の県民税が減額になった場合というのはどうなんですか。繰越しというか、翌年度は使えるの。どうなんですか、これ、ちょっと教えてください。

○湯浅水産農林課長補佐兼係長 森と緑の県民税については、一般枠と連携枠という部分がございます、一般枠のほうは基金へ5年間スパンで繰越ししていくんですけど、この部分は連携枠といってまた別の事業になります。そうすると事業年度ごとの生産性になります。

○奥田委員 そうなの。これはもう、そういうふうな繰越しというか、そういうわけにいかんということやね。

県としてはどうですか、来年度以降というのは。これ、当初予算はついておるのかな。

○芝山水産農林課長 また当初予算でも出てくるんですけれども、継続して今、今年度は、梶賀町内の河川流域の、もし災害が起こったときに倒木になって、それが民家のほうに流れて二次災害を起こさないようにするための流域防災という間伐事業になるんですけれども、3年度も引き続き梶賀町内でやらせていただきます。

○南委員長 他にございませんか。

○野田委員 6ページの債務負担行為の、小川委員のことに関連するんですけれども、これって実績ゼロということは、今言ったように、市中の金融機関のほうを使い勝手がよかったということと言われたんですけれども、これはこのまま、そうしたらあれは5年間ですか、10年間、県と追随して同じような形でやるという、その方針は変わらないということなんですか。

○芝山水産農林課長　この借換えは、令和２年度分で借り換えた分の債務負担行為、１件当たり上限４,０００万円まで借換えができるんですけども、令和２年度で借り換えた分に対して最長１８年間、それは計画の出し方によって１０年であったり、１５年であったり、１８年であったりというのが審査されるんですけども、その最長１８年間分を保証していこうというための債務負担行為でございました。

令和２年度分については、国が、当初の５年間は全部国が負担しますよということをおっしゃっていただいていたんですが、これはまた新年度、３年度予算で御説明いたしますが、国は、令和２年度分については国が負担するということにしていたんですけども、その方針を令和３年度は取りやめになりました。

ですので、令和３年度分からは市と県で初年度から、もう５年間国が見てもらえないようになりましたので、初年度から市と県で保証料を見ていくという意味合いの債務負担行為と予算計上をさせていただいております。

○野田委員　１９ページの立木の売払収入ということで、奥田委員さんが言われた資料、これ、毎年売上げに対する収支の報告というのはしていただいていると思いますので、重ねて、そういうデータのほうはよろしくお願ひしたいと思います。

それと、４５ページの有害鳥獣の件で、今回、捕獲が、対策事業が補正になっているんですけども、これまで、要は全体的に少なくなったのか、ただ、そういう、高齢者で猟をする方が少なくなっているのか、見回りが、パトロールがよくなって、こういうふうの下の方に下りてくるのが少なくなったとか、いろいろあると思うんですよ。

それで金額が、ニホンザルでしたら１万８,０００円の７０頭とかという予算を組む中で、どのような状況になっているのか。要は、この単価が低いのか高いのかとか、そこら辺、ちょっとお願ひしたいんですが。

○湯浅水産農林課長補佐兼係長　実際、うちのほうが予算立てして、報償金を払う分の頭数については減ってきております。ただ通報件数だとか、そういうのは、猿、イノシシ以外に、最近、町なかへアナグマだとか、そういうのが出てきておるという話は、ちょっとずつ増えてきておるのかなという気はします。

実際、その数字としては、ちょっとずつですけど下がってきてはおります。もちろんその高齢化だとか、そういう問題はあると思うんですけど、毎年大体捕っていただく猟友会のメンバーというのも、そんなには今のところ変わっていないので、減っているというほど減っていないですけど、少々は下がっています。

○南委員長 実績的にはどうやったの、数。

○湯浅水産農林課長補佐兼係長 今年度ですか。

少々お待ちください、すみません。

○南委員長 新年度も、猿 70、イノシシ 100、ニホンジカ 350 って前年度並みで、新年度と同じ予算配分やったんでしょう。

○湯浅水産農林課長補佐兼係長 はい、予算は一緒です。

○南委員長 そのまた実績だけ、分かったらちょっと。後でも。

○野田委員 それと、今回、修理の事業がコロナ禍の影響で、一言でそういう影響で減額補正される形になっているんですけども、要はこのところにおいて、今後の事業展開というか、事業というか、施策の展開ということはどのように考えているのかなというのをちょっとお願いします。

○芝山水産農林課長 またこれは、当初予算の主伐計画の予算のときにも御説明させていただくんですけども、当面の方針といたしましては、この 10 年来、主伐して市場へ出した売上げ、売払収入とその経費の採算がどうしても合わない状態が続いておりますので、できましたら、当面、主伐事業のほうを縮小していきながら、逆に、利用間伐という、間伐はどうしても 10 年スパンで手入れというのはしていけないといけないものですから、その手入れにかかる経費の中で利用間伐を進めるようにして、主伐ほど材料は増えませんが、売上げを少なからずそこで上げていくような形で、少しでも経費を抑制していくような形を取っていききたいなというふうに思っております。

○野田委員 49 ページの水産のほうの関係なんですけれども、後継者育成ということで、今回、漁業体験教室とか、これよりも補助金のほうの漁師塾とか、そういうのが減額になっています。

ということは、何を言いたいかというと、水産とか農林という部分は非常に事業のウエートが高い中で、今回こういう減額補正がされる中で、今後、こういう、要は金額的に減額される事業はしなかったということになります。そうしたら、この 1 年間何を考えて、今後の漁師塾とか、そういうものをどのように考えていくかということは、ちょうど考える時期ではないのかなと思うんですけども、その点、どのように考えていますか。

○芝山水産農林課長 あらゆるイベントや事業が確かに中止になって、減額ということにはなっているんですけども、我々、その中でも、ウイズコロナという視点ではいろんなアプローチをしております、例えば担い手対策などでありました

ら、そういう、体験教室漁師塾というイベント的な人を集めてということは、一堂に同じ日程でたくさんの人を集めてするというようなことはできませんでしたが、ここは、政策調整課のほうの移住のほうのチームといろいろ連携して、また、おわせ暮らしサポートセンター、あそことも連携をしまして、今あそこが出している S M O U T という移住希望者に対する職業を紹介するということに、天満の地域おこし協力隊もそうだったんですけれども、梶賀の大敷ですとか、そういったところを紹介する中で、実際そこで尾鷲のほうに来ていただいて、体験をしていただいて、今、そのまま今試用期間で梶賀のほうで大敷でお仕事をされているという方も見えますので、一気に市が教室的に集めてする予算は、新年度、一応計上はさせていただいておりますが、もしそれがかなわなかった場合としても、随時随時、1年間通して、そういう S M O U T みたいな職業をあっせんするようなサイトで広げていくというような形は取っていききたいなというふうに思っております。

○野田委員 以上です。

○南委員長 他にございませんか。

○湯浅水産農林課長補佐兼係長 先ほどの実績なんですけれども、昨年度合計で、猿、鹿、イノシシで468頭あったのが、今年度、2月末実績になりますけれども、現在362頭。約100頭ほど、頭数としては減った形になっております。

○南委員長 ありがとう。

他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○南委員長 それでは、ないようですので、議案第16号の令和2年度の補正予算の審査は終了させていただきます。

次に、議案第11号、令和3年度尾鷲市一般会計予算の議決についての説明をお願いいたします。

○芝山水産農林課長 それでは、議案第11号、令和3年度尾鷲市一般会計予算の議決についてのうち、当課に係る予算について御説明をさせていただきます。

歳入から御説明いたします。通知をいたします。

予算書の16ページ、17ページでございます。

2款地方譲与税、3項森林環境譲与税、1目森林環境譲与税につきましては、本年度予算額2,843万3,000円で、前年度と比べ1,505万3,000円の増額でございます。

内訳は、1節森林環境譲与税でございます。この森林環境譲与税は、令和6年度

までに段階的に増額され、本市では、令和6年度には4,500万円程度となる予定でございます。

予算書の22ページ、23ページをお願いいたします。

13款使用料及び手数料、1項使用料、4目農林水産業費使用料、本年度予算額274万3,000円で、15万6,000円の増額です。

内訳は、1節林業使用料は、林業研修センター使用料1,000円、2節水産業使用料274万2,000円のうち、当課分としては水産施設使用料73万2,000円で、大曾根浦漁港と古江漁港における漁港施設占用料でございます。

予算書26、27ページをお願いいたします。

2項手数料でございます。3目農林手数料、本年度予算額6,000円で、前年度同額でございます。

内訳は、1節鳥獣飼養手数料6,000円で、これはメジロの飼養許可証の発行に伴う2件分の手数料でございます。

予算書34、35ページをお願いいたします。

15款県支出金、2項県補助金、4目農林水産業費県補助金でございます。本年度予算額4,655万4,000円で、前年度予算額7,837万4,000円に対し、3,182万円の減額でございます。

内訳は、1節農業費補助金587万4,000円で、主なものは、中山間地域等直接支払事業補助金165万9,000円、獣害被害防止緊急捕獲活動支援事業補助金177万6,000円、新規就農者総合支援事業費補助金150万円などでございます。

2節林業費補助金2,548万円で、主なものは、森林環境保全直接支援事業補助金768万6,000円、みえ森と緑の県民税市町交付金1,682万2,000円などでございます。

森林環境保全直接支援事業補助金は、市有林の間伐、植付け、下刈りなどに対する68%の補助金で、新年度では九鬼町地内を予定しております。後ほど歳出の説明の際に、資料を交えて御説明をさせていただきます。

みえ森と緑の県民税市町交付金の内訳につきましては、基本枠事業として1,024万4,000円と連携枠事業として657万8,000円。連携枠事業は、流域防災機能強化対策事業、先ほど御説明いたしました梶賀町での事業でございます、587万5,000円と、市有林植付けに係る獣害柵設置分70万3,000円でございます。

3 節水産業費補助金 1,520 万円で、主なものは、水産物供給基盤機能保全事業費補助金 1,500 万円、ストックマネジメント事業でございます。詳細につきましては、歳出で御説明をいたします。

予算書 36 ページ、37 ページをお願いいたします。

16 款財産収入でございます。1 項財産運用収入、1 目財産貸付収入、本年度予算額 1,660 万円で、11 万円の減額です。

内訳は、1 節土地建物貸付収入のうち、当課に係る分は農林関係土地貸付料 88 万 8,000 円です。これは、電源開発等の電線、電柱などへの市有林の土地貸付料による収入でございます。

次のページをお願いいたします。

2 項財産売却収入、1 目不動産売却収入、本年度予算額 231 万 6,000 円で、前年度予算額 1,228 万 5,000 円に対し、996 万 9,000 円の減額です。

内訳は、1 節立木その他売却収入で、九鬼地区で実施する主伐業務 0.3 ヘクタール分、利用間伐 6 ヘクタール分による立木売却収入でございます。詳細は、歳出にて資料で御説明をさせていただきます。

42 ページ、43 ページをお願いいたします。

20 款諸収入でございます。4 項受託事業収入、2 目農林水産業費受託事業収入、本年度予算額 3,090 万円、前年度実施がないことから皆増でございます。これは、従来の公団造林、今は森林整備センターという名称になっておりますが、森林整備センター 10 分の 10 の負担による、利用間伐を進めていくための水源涵養事業でございます。詳細は、歳出にて資料で御説明をさせていただきます。

続きまして、歳出を御説明いたします。

予算書 192 ページ、193 ページでございます。通知をいたします。

5 款農林水産業費、1 項農業費、1 目農業委員会費、本年度予算額 1,065 万 9,000 円で、前年度予算額 1,041 万 9,000 円に対し、24 万円の増額です。

財源内訳は、国県支出金 84 万 7,000 円、一般財源 981 万 2,000 円でございます。

内容は、農業委員会運営費 198 万 6,000 円で、主なものは、委員等の報酬 165 万 5,000 円と、次のページをお願いいたします。

農業会議負担金 19 万 2,000 円でございます。

2 目農業振興費、本年度予算額 852 万 3,000 円、前年度予算額に対しまし

て 203 万 9,000 円の増額でございます。

財源内訳は、国県支出金 325 万 1,000 円、一般財源 527 万 2,000 円でございます。

内容は、一般振興事業 619 万円で、主なものとしましては、天満アマナツミカン地区、アマナツミカンの農業支援としての地域おこし協力隊への報償費 249 万 6,000 円、補助金としてその活動に対する補助金 150 万円、三木里地区での新規就農者への農業次世代人材投資事業補助金 150 万円などがございます。

中山間地域等直接支払事業 221 万 3,000 円は、中山間地域の農業生産条件が不利な地域において 5 年以上農業を続けることを計画した農業者の皆さんに対して交付金を交付するという事業でございます。天満地区のアマナツ農家が申請しておりまして、現在は第 5 期目に入っております。令和 2 年から令和 6 年度までの 5 か年が第 5 期目になります。地区の水路保全や草刈りなどの取組を実施していくという計画でございます。

次のページをお願いいたします。

3 目農地費でございます。本年度予算額 220 万 5,000 円、前年度に対しまして 341 万円の減額となっております。

内容は、一般農道整備事業 90 万 2,000 円と農業用水路改良事業 130 万 3,000 円でございます。

内容は、それぞれ尾鷲市が管理する農道、農業用水路の修繕が主なもので、基盤整備係の内山係長のほうから資料で説明をさせていただきます。

資料 1 ページを御覧ください。通知をさせていただきます。

○内山水産農林課係長 それでは、3 目農地費について詳細を説明させていただきます。

資料の 1 を御覧ください。

農道及び農業用水路の主な修繕箇所位置図でございます。一般農道整備事業の修繕料 60 万円と農業用水路改良事業の修繕料 80 万円を計上しております。主に、修繕が必要である農道 3 路線、農業用水路 4 路線についての位置図となっております。

以上です。

○芝山水産農林課長 それでは、予算書 198、199 ページでございます。通知をさせていただきます。

5 款農林水産業費、2 項林業費、1 目林業総務費、本年度予算額 1,665 万円

で、前年度予算額 2,298 万 3,000 円に対し、633 万 3,000 円の減額となっております。

内容は、林業研修センター管理費 25 万 8,000 円と林業活性化推進費 79 万 1,000 円でございます。

林業活性化推進費の主なものは、旅費 10 万 1,000 円は、東京都港区でのみならず森と水ネットワーク会議への参加旅費と、負担金は、次のページをお願いいたします。

尾鷲林政推進協議会会費 25 万円、三重県森林協会会費 28 万円、尾鷲市林業振興協議会会費 5 万円、みならず森と水ネットワーク会議負担金 5 万円などがございます。

みならず森と水ネットワーク会議負担金に関連いたしまして、主要施策の予算概要にて農林振興係、湯浅補佐から詳細を説明させていただきます。

○湯浅水産農林課長補佐兼係長 それでは、主要施策の予算概要 49 ページを御覧ください。通知します。

事業名、みならず森と水ネットワーク会議事業。事業の目的といたしましては、首都圏における尾鷲ヒノキのブランドを伸展させ、需要拡大を図るものでございます。

内容につきましては、尾鷲ヒノキのさらなる伸展を目的として、東京都港区と間伐材をはじめとした国産材の活用促進に関する協定を締結し、みならず森と水ネットワーク会議に加入しております。このことから、港区に建てられる建築物等において、その加入をした協定自治体からの協定木材を利用することが推奨されることとなり、区内はもとより、首都圏での尾鷲ヒノキを P R し、需要拡大に向けた足がかりとしたいというものでございます。

事業費につきましては、旅費として、首都圏での販路拡大に向けての P R 活動 10 万 1,000 円、それから負担金につきましては、ネットワーク会議の負担金 5 万円でございます。事業費合計 15 万 1,000 円で、全額一般財源でございます。

以上です。

○芝山水産農林課長 それでは、予算書 201 ページでございます。通知をさせていただきます。

201 ページ中段でございます。林業一般経費 117 万 7,000 円は、主に林業振興事務に関する経費でございますが、旅費 21 万 3,000 円は、大阪、東京への尾鷲ヒノキ販路開発に関する営業旅費でございます。

また、使用料及び賃借料のシステム使用料 27 万 8,000 円は、三重県の森林

資源情報を管理するクラウドシステムの年間使用料でございます。

2 目林業振興費、本年度予算額 6,125 万 2,000 円で、前年度に対し 930 万円の増額でございます。

財源内訳は、国県支出金 1,018 万 9,000 円、その他特定財源 3,465 万 4,000 円、一般財源は 1,640 万 9,000 円でございます。その他特定財源の主なものは、尾鷲みどりの基金繰入金でございます。

内容は、有害鳥獣対策事業 583 万 2,000 円でございます。

次のページをお願いいたします。

中段でございますが、木材需要拡大事業 157 万円は、尾鷲産材 P R 展示会補助金 37 万円、尾鷲産材活用促進補助金 120 万円でございます。これは、尾鷲ヒノキなど地元産材を使い、市内に住宅を建てる人に対する補助金 4 件分でございます。

森林環境創造事業 121 万 6,000 円は、環境林として間伐などを行う整備事業の業務委託料で、新年度では賀田町地内の民有林 2.93 ヘクタールにて間伐を行います。県補助率 80%でございます。

尾鷲みどりの基金事業 3,238 万 4,000 円は、一般財団法人尾鷲みどりの協会からの寄附金を財源とした事業で、自然体験業務委託料 304 万円は、三重大学生物資源学部が行う県内の自然体験アクティビティーを資源として維持、保全、活用できる人材育成プログラムに対する業務委託料 230 万円と、市内の小中学生を対象とした木育、山育などの森林学習を中心とする体験事業の委託 74 万円でございます。

次のページをお願いいたします。

工事請負費 700 万円は、尾鷲市が管理する林道白浜谷線の舗装工事で、総延長 1,340 メートルに対し、これまで 2 か年で 429 メートル完了しており、新年度では 210 メートルの舗装を予定しているものでございます。

補助金 2,230 万円は、森林組合おわせが実施する造林事業と林道補修事業への補助金でございます。

森林経営管理事業 1,280 万 9,000 円は、森林環境譲与税を原資とした事業で、令和元年度から実施しております須賀利地区において、森林所有者から森林経営管理についての意向調査を引き続き行い、その結果に基づいて境界を確認していく業務を行う計画でございます。

委託料 1,217 万 1,000 円のうち、森林経営管理事業業務委託料 984 万 7,000 円は、今年度実施した所有者への意向調査で市に管理を委任した 42.6 ヘ

クターについて、森林調査、測量を行っていくというものでございます。

森林測量管理システム導入業務委託料 232 万 4,000 円は、GPS を用いた測量システムで、GPS やドローン解析による資源データ管理の仕組みを当事業で取り入れていきたいというふうに考えております。

暮らしに身近な森林づくり事業では、みえ森と緑の県民税を活用した危険木伐採のための補助金で、自治会や区などが行う危険木伐採に対して 80 % を補助するものでございます。

みえ森と緑の県民税連携枠事業は、三重県が県民税を用いて実施した流域整備エリアで、人家等に近い溪流沿いの適正に管理をされていない森林において、立木や土砂流出により下流に被害を及ぼすおそれがあるものについて、市町が森林所有者と協定を結んだ上で間伐や除伐を行うものでございます。新年度は、今年度に引き続き、梶賀町地内で 10 ヘクタール分の流域で間伐等を行う予定となっております。

第 3 目でございます、林道開設改良費、本年度予算額 1,755 万 3,000 円で、前年度予算額 5,871 万 2,000 円に對しまして、4,115 万 9,000 円の減額でございます。

減額の主な理由は、今年度、農山漁村地域整備交付金事業での林道橋梁の整備を見送ったことによります。

内容は、次のページをお願いいたします。

一般林道整備事業 289 万 6,000 円で、修繕料 229 万 2,000 円のうち、市が管理する林道修繕は 200 万円、車検に伴う修繕は 29 万 2,000 円でございます。

詳細は資料にて、基盤整備係の内山係長から御説明をさせていただきます。

○内山水産農林課係長 それでは、3 目林道開設改良費について詳細を説明させていただきます。

資料の 2 ページを御覧ください。

一般林道整備事業、林道の主な修繕箇所位置図となっております。修繕料 200 万円を計上させていただきました。主に、修繕が必要である 4 路線についての位置図となっております。

以上です。

○芝山水産農林課長 予算書 206 ページ、207 ページにお戻りください。通知をいたします。

1 番下でございます。5 款農林水産業費、3 項山林事業費、1 目管理費、今年度

予算額 8,939 万 3,000 円で、前年度予算額 4,373 万 2,000 円に対し、4,566 万 1,000 円の増額でございます。

財源内訳は、国県支出金 838 万 9,000 円、その他財源 3,090 万円は、受託造林事業として国立研究開発法人森林整備センター、旧の公団造林でございます、からでございます。一般財源は 5,010 万 4,000 円でございます。

主な増額の理由は、その他財源として、10 分の 10 事業の受託造林事業の増によるものでございます。

次のページをお願いいたします。

内容は、市有林管理事業 1,777 万 1,000 円で、主なものは、委託料 1,516 万 4,000 円のうち、主伐搬出委託料 172 万円。これは、市有林管理において当面主伐面積を縮小し、利用間伐などを増やしていこうとするものでございます。これにつきましては、森林環境保全直接支援事業業務委託料と併せて、後ほど資料で御説明をさせていただきます。

使用料及び賃借料の車両借上げ、機械借上料は、山林作業員 4 名分のそれぞれ車両、チェーンソー機器などの借上料でございます。

次のページをお願いいたします。

F S C 事業 89 万 6,000 円は、主なものは F S C グループ認証に係る負担金 70 万円でございます。

住宅造林管理事業 3,090 万円は、森林整備センターによる水源涵養や土砂流出防止を目的とした緑のダムとしての水源林造成事業で、全額森林整備センター負担の事業でございます。

今年度につきましては、川原木屋地区の市有林において保育間伐、いわゆる切捨て間伐というものでございます、保育間伐を行うことと、森林内に作業道を設けるための測量と、その一部作業道の開設を予定しております。

この作業道による搬出は、従来の尾鷲林業に多い河川方式での搬出方法ではなく、森林内に作業道を設けることで、キャタピラーなどの車両系により森林内で伐採をした材などを集め、土場にあるトラックまで運び出す方式でございます。

作業道が出来上がりましたら、その作業道周辺のエリアは利用間伐をすることができ、令和 4 年度以降になりますが、間伐材を木材市場のほうに出していくことができるようになるものでございます。

詳細は、主伐事業と併せまして資料で御説明させていただきますが、この 10 年以上、搬出経費と丸太材の売上収支が合わない市有林事業におきまして、車両系の

搬出により少しでも経費削減につながらないかということ。また、主伐ではなく、利用間伐を増やしていくということは、伐採後の植付け経費を抑制することもできるということ。また、利用間伐をすることで、若干にはなりますが、市場のほうにも材の供給が継続することができること。特にこの事業におきましては、売払収入としまして、10分の6、尾鷲市に分取していただくことができること。また、間伐後の森林が豊かになりまして、将来に対する主伐のときの森林投資につながるなど、メリットが非常に大きいことが特徴でございます。

また、何よりも、10分の10全額負担の中でそれを実施することができるということは、本市にとっても大変ありがたい事業でございます。数年間は続けていただけるものと予想をしております。

さらには、今後の間伐をした後の山を、国が環境的にも今推奨している複層林化ということを図っていくことで、そうすれば複層林化するときの植付け費も全額国に負担をしていただくことができるということでございますので、こうした事業を視野に入れまして、森林整備センターと情報コミュニケーションを密にした市有林管理を行っていきたいというふうに考えております。

それでは、市有林管理事業につきまして、市有林系の千種主幹のほうから資料で説明をさせていただきます。

○千種水産農林課主幹兼係長 それでは、主伐搬出委託と利用間伐、植付けについて説明させていただきます。行政常任委員会資料を通知します。

行政常任委員会資料3、3ページをお願いします。

まず、主伐につきましては、市有林、九鬼地区での伐採、搬出、造材、運搬で、面積が0.30ヘクタール、材積が119立米、本数は、ヒノキが176本、杉55本の合計231本となっております。

事業費については、搬出委託料172万円です。

続いて、利用間伐につきましては、利用間伐対象エリア6.00ヘクタール、こちらのオレンジの部分となっております。6.00ヘクタール内において森林作業道を900メートル開設し、間伐した材を150立米搬出する予定となっております。

本事業により森林整備が進み、豊かな森林となるだけでなく、間伐された材を搬出し市場へ運搬することでの間伐材の有効利用にもつながります。

また、今回、主伐及び利用間伐については、従来の集材方法である河川系ではなく、搬出コストを抑えるため高性能林業機械を使用した車両系による搬出を考えて

おります。

続いて、植付けにつきましては、令和元年度主伐地の早田町と令和３年度に主伐予定の九鬼町地内、この黄色の部分を用意しております。九鬼町地内については小面積であることから、令和３年度中に主伐と植付けを予定しております。

続きまして、資料の４ページをお願いします。

こちらは九鬼地区と川原木屋地区の位置図となっております。

続きまして、５ページをお願いします。

川原木屋地区において、保育間伐と、森林整備センターが進めている育成複層林造成と、利用間伐を実施していくための森林作業道の測量設計及び開設を予定しております。

事業費３，０９０万円、全て森林整備センターからの事業費となっております。

保育間伐につきましては、地図の上が林道の入り口部分となっておりますが、３５．７４ヘクタールの箇所は、地形が急峻であることから切捨て間伐となっており、地図の下２８．２４ヘクタールの箇所は、林道の終点部分に位置し、一部しか林道に接していないことから、今回切捨て間伐ということになっております。

森林作業道につきましては、測量設計を４，０００メートル、開設を６００メートル予定しており、次年度以降は、測量設計を実施した残りの部分３，４００メートルの開設を進めながら、開設した森林作業道を活用した利用間伐を行う予定となっております。その後、森林作業道が十分設置されれば複層林誘導伐を行い、育成複層林の造成を目指していきます。

続いて、６ページをお願いします。

育成複層林の造成につきましては、５ヘクタール以上の区域において皆伐面積を２ヘクタール以上に抑え、二つ以上の複数の林齢の山を配置することで複層林誘導伐を実施していきます。これは、小面積による分散伐採によって環境への負荷の軽減を図るという意味で、公益的機能を持続的かつ高度に発揮していくものであります。

ちなみに、複層林誘導伐で実施した区域については、植栽、保育等に要する費用は全て森林整備センターが負担となっております。また、利用間伐や複層林誘導伐によって得た収入については、市が６、森林整備センターは４の割合で分ける分収契約となっております。

以上です。

○芝山水産農林課長 予算書２１０ページ、２１１ページにお戻りください。通

知をさせていただきます。

210ページの一番下段でございます、一番下でございます。保育費、植付費は、これまで2目、3目として細分化をしておりましたが、新年度より、市有林に係る経費等の分かりやすさという観点から、市有林管理事業として、1目管理費に統合することとして廃止をさせていただきます。先ほどの1目の説明の中に、従来の2目、3目は含まれているということで御理解をお願いいたします。

次のページをお願いいたします。

5款農林水産業費、4項水産業費、2目水産振興費、本年度予算額1,416万1,000円で、前年度予算額1,319万2,000円に対し、96万9,000円の増額です。

財源内訳は、国県支出金20万円、その他特定財源550万円、一般財源846万1,000円でございます。その他特定財源につきましては、ふるさと応援基金繰入金でございます。

内容は、漁場の管理保全事業146万円で、尾鷲湾、賀田湾の魚類養殖場の環境調査や海草増殖試験などを行う事業でございます。

主なものは、委託料44万円は、尾鷲湾、賀田湾での三重大とのガラモ植生調査委託料でございます。

使用料及び賃借料は、尾鷲湾、賀田湾での環境調査に使用する船舶借上料と、モニタリング調査に必要なダイビング用エアーボンベ使用料でございます。

次のページをお願いいたします。

つくり育てる漁業の展開事業396万4,000円は、尾鷲ヒノキ製アオリイカ産卵床事業の間伐材運搬等手数料や船舶借上料などと、カサゴ、ヒラメ、マダイ、トラフグの種苗放流事業などの負担金336万4,000円でございます。

後継者育成事業137万6,000円は、次のページをお願いいたします。

尾鷲市漁業体験教室業務委託料78万4,000円と、漁業後継者確保支援整備事業補助金36万円などでございます。

水産振興一般事務費48万7,000円は、「尾鷲の漁業」の作成費や漁獲量調査手数料などでございます。

水産振興補助金223万8,000円は、尾鷲市漁業近代化利子補給金43万9,000円、産地協議会強化支援事業補助金80万円と、次のページをお願いいたします。

漁業経営維持安定資金利子補給金4万6,000円、同じく漁業経営維持安定資

金の保証料補助金 20 万 8,000 円などで、コロナ禍における漁業者の経営維持をするための有利な借換えに資する制度でございますが、この漁業経営維持安定資金に係るものは、令和 2 年度分につきましては国が当初の 5 年間を負担していただいておりますが、実際の予算計上措置はございませんでしたが、令和 3 年度の借換えに係るものにつきましては、国が当初 5 年間の負担措置をなくしたことから、三重県と該当する市町で利子等を初年度から負担するとしたことによる予算計上でございます。

金額は、借換え上限額の 4,000 万円に対する 1 件分の利子補給並びに保証料補助でございます。

なお、債務負担行為も計上させていただいておりますので、後ほど改めて資料で御説明をさせていただきます。

水産振興負担金は 371 万 6,000 円で、主なものは、漁業共済事業負担金 324 万 8,000 円などでございます。

水産多面的機能発揮対策事業 76 万円は、尾鷲湾、九鬼浦、早田地区、三木浦の藻場再生協議会の藻場造成事業への補助事業で、主なものは、協議会の活動に対する市負担金 15% 分、56 万円などでございます。

藻類・二枚貝養殖普及事業 9 万円は、マガキやヒロメなどの養殖試験に係る費用でございます。

水産物普及啓発事業 7 万円は、次のページをお願いします。

市内の中学生に魚のさばき方や調理方法を体験してもらい、尾鷲の魚のおいしさなどを直接感じ取ってもらうことで魚食普及につなげ、水産業の魅力を発信していくことを目的とした取組で、講師謝礼や消耗品を上げさせていただいております。

また、水産物普及啓発という観点からは、商工会議所の女性部が 5 年前に作成をしました市内の秘境を紹介したガイドブック『魅せます！尾鷲』の第 2 弾として、尾鷲の魚を紹介するガイドブックの作成を考えているということでございますので、当課といたしましては、今年度は消費喚起 PR 動画というものを作らせていただきましたので、その活用と連動させまして、女性部の皆さんの行動力、アピール力というものを生かした魚の魅力を発信するという取組として、最大限協力をさせていただきたいというふうに考えておるところでございます。

続きまして、3 目漁港管理費でございます。本年度予算額 414 万 2,000 円で、前年度予算額 395 万 3,000 円に対し、18 万 9,000 円の増額です。

内訳といたしまして、その他特定財源 73 万 2,000 円は、水産施設使用料と

して漁港占用料で、一般財源は３４１万円でございます。

内容は、漁港一般管理費３３９万２，０００円で、尾鷲市が管理する８漁港の施設修繕料１００万円、漁港防潮扉整備点検業務委託料１６２万７，０００円などでございます。

漁港公園管理費７５万円は、行野浦、早田、古江漁港の公園管理委託料などでございます。

続きまして、４目漁港建設費、本年度予算額３，７７９万３，０００円で、前年度予算額６，１３７万９，０００円に対し、２，３５８万６，０００円の減額です。

財源内訳は、国県支出金１，５００万円、地方債１，５００万円、一般財源は７７９万３，０００円でございます。

主な減額の理由は、水産基盤ストックマネジメント事業費の減額によるもので、次のページを御覧ください。

ストックマネジメント事業３，０４０万４，０００円で、新年度は九鬼漁港の測量設計で工事請負費がないため、前年度比較が減額となっているものでございます。

詳細につきましては、基盤整備係、内山係長より資料にて御説明をさせていただきます。

○内山水産農林課係長 資料の７ページを御覧ください。

資料番号４になります、水産基盤ストックマネジメント事業、九鬼漁港機能保全業務委託の位置図となっております。

事業内容は、九鬼漁港の駅前岸壁Ａ、駅前岸壁、駅前岸壁Ｂと係留突堤についての測量調査設計業務になります。

事業費は３，０００万円で、財源内訳は、県支出金１，５００万円、その他特定財源１，５００万円となっております。補助率は５０％でございます。

以上でございます。

○芝山水産農林課長 続きまして、予算書、少し飛んでいただきまして、３１０ページ、３１１ページをお願いします。通知をいたします。

３１０ページ、中段でございます。

１０款災害復旧費、１項農林水産業施設災害復旧費、１目現年発生農林水産業施設災害復旧費、本年度予算額２００万円で、前年度予算額と同額でございます。

内容は、農林業施設復旧費１００万円、水産業施設復旧費１００万円でございます。

続きまして、債務負担行為の説明に移らせていただきます。

予算書 9 ページを御覧ください。通知をいたします。

第 2 表、債務負担行為に係る当課の事業は、下から 3 段にわたる 3 本が該当いたします。

森林測量管理システム使用料は、森林環境譲与税を用いた森林管理に係る資源管理を G P S 測量などで得たデータで管理するシステムの使用料でございます。令和 4 年度から 7 年度までの 4 年間で、1 年間 4 2 万 3, 0 0 0 円の 4 年間分として、1 6 9 万 2, 0 0 0 円を限度額として計上させていただいております。

次の漁業経営維持安定資金利子補給金及び漁業経営維持安定資金保証料補助金につきましては、令和 4 年度から 2 1 年度まで、制度の最長期間である 1 8 年間分を設定するものでございます。

詳細につきましては、水産振興係、中世古主幹より資料にて御説明をさせていただきます。

○中世古水産農林課主幹兼係長 資料の 8 ページ、資料 5 を御覧ください。

漁業経営維持安定資金債務負担行為につきましては、依然として新型コロナウイルス感染症終息の見通しは立っておらず、漁業経営に深刻な影響を及ぼす可能性が高い中、先ほど課長説明でもございましたが、国は令和 2 年度で 5 年間の無利子、保証料免除、無担保の支援を終了しましたが、本市では、三重県と併せて、1 年目以降からの無利子、保証料免除支援を行うことを目的とします。

借受け資格者につきましては、漁業経営再建計画を作成し知事の認定を受けた漁業者となっており、融資総額としましては 4, 0 0 0 万円を見込んでおり、積算方法は 1 件当たりの融資上限額でございます。

償還期間につきましては、最長 1 8 年となっております。

制度の流れについては、前回の説明資料を基に、今回変更となったところを見え消し、赤色で表示しております。

金利については、令和 2 年 1 0 月 2 0 日現在の基準金利保証料率にて表しております。

利子補給制度は、上の段が通常のフロー図で、2 段目が今回の措置によるフロー図ですが、上の段、通常では県が 1. 3 %、漁業者負担が 0. 3 %ですが、2 段目、コロナ対応として漁業者負担をゼロにしようとするものですが、国が 5 年間の利子補給を取りやめたため、漁業者負担分 0. 3 %を 1 年目から県と市で折半し、県と市それぞれ 0. 1 5 %ずつを負担するものであります。利子補給については、県が、もともと支援していた 1. 3 %プラス折半分の 0. 1 5 %を足して 1. 4 5 %になり、

市の負担分については0.15%となります。

保証制度につきましては、3段目が通常の制度になりますが、通常は漁業者が保証料率の1.03%を全額負担しておりましたが、コロナ対応が4段目になります、保証料についても同様に、国が5年間の保証を取りやめ、1年目以降を県と市で折半し、県0.51%、市0.52%を支援していこうとするものであります。

説明は以上でございます。

○芝山水産農林課長 以上で令和3年度当初予算に係る当課の説明を終わらせていただきます。よろしく御審議いただき、御承認くださいますようお願い申し上げます。

○南委員長 ありがとうございます。

ここで10分間休憩します。

(休憩 午前11時07分)

(再開 午前11時16分)

○南委員長 休憩前に引き続き委員会を続行いたします。

それでは、先ほど説明のあった令和3年度の当初予算の審査に入りたいと思います。

御質疑のある方、御発言をお願いいたします。

○内山委員 資料の6ページの育成複層林の関係なんですけど、さっき説明で、初回は森林整備センターさんが負担してくれるというんですけど、来年度、区域を決めたら、また同じような事業ができるのかどうかというのと、先進事例というか、ちょっと後で調べておきたいので、あればお示してください。

○芝山水産農林課長 複層林事業、それから受託造林事業につきましては、令和3年度は、森林整備センターのほうはいつまでという明確な年度のやり取りは、やっぱり予算の加減がありますので、ちょっと未定ですということなんですけれども、ただ、作業道の測量設計を4,000メートル分、令和3年度やっていただきます。そのうち令和3年度内には600メートル開設されるということで、主幹の説明にもありましたけど、残り3,400メートルを数年間かけて、例えば600メートルぐらいずつやっていくのであれば、数年間、この事業はこのエリアの中で続けていける、いくもんだというふうに考えておりまして、その間、作業道周辺のエリアの市有林を複層林化していくというような形になっていくんだと思っています。

その複層林化するときの植付け費用、切った後に植付けする費用というものは、

この森林整備センターのほうが全額補助していただけるということで、こういう形で山を豊かにしていくというような、確かに見せるというような、そういう仕組みというか、仕掛けも必要になってくるとは思っております。

○内山委員 あと、先進というか、他市町事例とかありますか。

○千種水産農林課主幹兼係長 先進事例としましては、やはりこの三重県内でも、例えばホームページを見てもらうとあるんですけれども、群状とか帯状とかというのはあります。

○南委員長 よろしいですか。

○三鬼（和）委員 関連してなんですけど、この資料を頂いたやろう。資料の5ページか。これは先ほど4,000メートル測量してってなんですけど、ただ単に測量というか、こういった後々の作業道であるとか、森林浴でも、山の多目的というんか、多様な活用する中では、コースについてはこういった方が測量するんですか。普通の測量士というか、コースを決めるのに当たってはこういった方がするんか、その辺ちょっと専門的なことを教えてください。

○芝山水産農林課長 この作業道を造っていくというのは、やっぱりある程度技術とか、山の知識というのが必要になってくるといふうには聞いております。そういうことを専門にやってみえる業者さんも、実際、尾鷲の山にも何件か入ってみえたりもしておりますので、これは森林整備センターのほうからもそういうちょっと指導であったりとか助言というのはいただけるものと思っておりますので、そういったチームの方にどのような形、今一応この赤い線は、これ、森林整備センターのほうから頂いた図面を基に起こしているものですから、このような形でこのエリアには道をつけていくのが一番効果的であるというふうなことは、向こうのほうで考えていただいていると思っています。

○三鬼（和）委員 何ですか、本市においては雨も多いということがあるので、やみくもとというんかな、谷の感じとかという。

それと、もう一点は、将来、植林、育林がどうかというのを、これ、ちょっと一般質問でも取り上げさせていただいたんですけど、山の運用というのが多様性を帯びてくるのではないかなと思うんです。

わし、例えばソロキャンプとか、そういったのを含めてでも、山林関係へ入っているのが多いとか、尾鷲トレイルなんかも始まったりして、こういった地域おこしというか、まちづくりに生かさない手はないんじゃないかなというたときに、そういったものにも将来的には活用できるというんですか、一旦設計が、何ですか、設

計とか、ああいうのができた段階で、こういったことも含めて、主伐も含めた中で、こういった計画も併せて、ソフト的なことも併せて今後計画していくべきだと思うんですけど、その点についてはどうですか。

○芝山水産農林課長　先ほどの作業道のつけ方という点につきましては、我々も今回こういう車両系を導入するという予算を立てさせていただく前に、山の関係の方にもいろいろちょっと何人か、御相談とかアドバイスをいただきながらやってきたんですけれども、確かにデメリットと申しますか、注意をしないといけない点というのは、やっぱり言われるように、水道になってしまうおそれがあるということで、従来、尾鷲の方はそういうような理由から、河川系をたくさん使ってみえて、車両系というのはなかなか使っていなかったというのが1点と、それとやっぱりこの岩場、花崗岩の山が多いですので、道をつけにくい急峻であるというようなことが言われておりました。

ただ、もうやっぱり以前は、かなり以前は、河川で多少経費をかけて行っても、その分十分採算が合っていたということもありまして、近年では、やっぱり少しでも経費を削減するために車両系を導入しようとする。それと、車両が物すごく高性能化してきましたので、尾鷲みたいな山でも入りやすくなってきたというようなことは、いろいろアドバイスの中でいただいたことでございます。

尾鷲は平らな部分が少ない山で、特に市有林は平らな部分が少ないものですから、なかなか我々も環境林にいい場所がないかというようなところは、いろいろ見ているんですけれども、今いろいろ子供たちが体験している八鬼山の棚山という、熊野古道沿いのところであったりとか、この川原木屋も一部入り口のところは、そういうような形で環境林化できないかなというようなことも視野に入れながら進めております。

○三鬼（和）委員　川原木屋の八幡峠越えて、一度、雨量については、以前に道路が崩壊したということがあるので、雨量が多いということは間違いないと思うので。ただ、あそこ、景色的に一番奥行くといと、あれ、タカ何とか、尾鷲の一番高い山に登っていく山道があったりとか、奥へ入るといと、ある程度、何やというか、勾配の緩い山なんかがあって、将来的にそういった多様なものに使うのにはちょうどいいと思うので、この道路を造るときにも、そういったことも考えて最終決定してほしいなと思います。

それと、194、195の中の農業なんですけど、補助金の中の農業次世代人材投資事業補助金、これ、4年目ぐらいになるんかいな。そういうので今年も150

万しておるんですけど、現状としてどれぐらいの農地を所有されて、もう生産的なものを行っておるのか、年間どれぐらいの生産につながっておるのかということを含めて、それと、この事業を5年間行った中で、将来的にもこの農業を続けていけるようなあれなのか、ただ任せっ放しじゃなしに、指導的な部分ではどうされておるのかちょっと詳しく説明してください。

○湯浅水産農林課長補佐兼係長　　今三鬼委員さんおっしゃられたように、この三木里で活動している方ですね、4年目、5年中の4年目ということで、来年度5月から4年目に入るところなんですけれども、3年目の去年、道がついたおかげで、それに伴い農地を広げました。今約1人で1ヘクタール強ぐらい見ているんですけど。2年目までと3年目というのは、やはり農地が広がったおかげで多品種の野菜を多く植えたり、今は、ほいで果実なんかもちょっとずつ植えているということで、収入としてはそんなに、農地の使える部分、使えない部分というのもあらかた1年で分かってきたということなので、今年またそれを改良しながら植付けをやっていくということだったんですけれども。

収入としてはどうでしょう。所得で……。

（「250万円」と呼ぶ者あり）

○湯浅水産農林課長補佐兼係長　　250万までの所得の方には、もう150万頂ける、所得に応じてだんだん下がっていくんですけど、満額頂ける程度のまだ所得しかないんですけれども、そこはもう1年で分かった部分を改良しながら続けていくと。将来的にも、5年終わった後でも、もうずっと三木里において活性化と農業を続けていくということは、本人はおっしゃっていただいています。

うちとしても、何にもほらくりというわけじゃなくて、コミュニケーションを取りながら、県それから農協等のバックアップもいただきながら、コミュニケーションはちゃんと取っておりますので。

○三鬼（和）委員　　当議会においても、現地視察の上岡農道の上かな、させていただいたし、年齢も若い人ということで、ほかの地区においては、水耕栽培でトマトとかイチゴとかといって別の成功しておられる方もいますけど、野地栽培という形で休耕地になったところを開墾してくれたりとか、若い人が地域に住むということで事業をしておりますので、何とか生産性があるって、後々の田畑とかが荒れないようなということで、今後も手広くやっていただけるといいなと思いますので、やっぱり指導とか相談というのは怠らんと、あと1年の事業だとは思いますが、やってほしいなと思います。

○仲委員　先ほどの内山委員さんの関連なんですけど、211ページですね。

受託造林管理事業で、最終的には緑のダムが目的と、その経過の中で作業道も造って、将来的には育成複層林にするという考え方だと思うんですけど、これはあくまで受託造林の考え方で基づいて実施していくということだと思うんですわ。これは国の考え方。

一方では、市有林の考え方、これまでは樹齢100年までのサイクルで10ヘクタール切っていくというような考え方が示されておったんですけど、市有林としての育成複層林の考え方は、どのように将来的に考えていますか。

○芝山水産農林課長　仲委員さんおっしゃられるように、これまでは市有林の主伐ということで10ヘクタールくらいを主に目指して、ずっと切ってきたんですけども、やっぱり一番、大体200万以上の採算の赤字がずっと続いておりまして、できれば今年度以降、その主伐量を減らして行って利用間伐にしていく。利用間伐ということは、やっぱり不要な木を切っていくということです。その不要な木を切りながら、少しでも市場のほうには材を出して行って、若干の収入は得ていきたいというふうに考えているのが一つと、不要な木を切っていた後の残りの市有林、森林については、いい良木を育てていくようにして、それが、例えば80年から100年伐期というようなところの、そういう将来計画を持って山造りというものをしていく、ちょっと当面の間はそういった形で少しでも赤字削減をしていくために、この数年間、そういう方針で山造りをしていきたいなというふうに考えております。

ちょうどそういうところに、この受託造林の事業をうちの技師が取ってきてくれたので、その受託造林の中でいろいろちょっと社会実験というんですか、そういうような山造りの、ちょっと我々も初めてそういう車両系も導入しますので、そういったこともちょっと挑戦をしながらやっていきたいなというふうに考えております。

○仲委員　よく分かりました。今回の受託造林は試験的、実験的なものだと、ほいで市有林の考え方は、今までどおりの考え方が生きているという考え方だと思います。

一方では、主要施策の59ページ、59ページで、予算書の209、市有林管理事業の中で、間伐ありますね。九鬼地区で6ヘクタール、その中で、間伐した材の搬出を行うことで間伐材の有効活用を図るという文面なんですけど、実際には、間伐材の有効利用で、市場に出荷した後の需要、どのような需要があるかは把握していますか。

○芝山水産農林課長　今、尾鷲木材市場、当然、御当地の尾鷲木材市場のほうに

材を出していこうと考えているものでございますけれども、令和３年度の間伐につきましては、大体ですが、１５０立米程度の材を出していきたいというふうに計算を見積もっております。そうしますと、今の直近の相場で考えていきますと、大体１１０万円程度の収入につながってくるのかなと考えているのが一つとですね。

それともう一つ、飯南にあります小径木市場という間伐を専門にした市場がございます。そこにも去年来から何度か足を運んで、また担当の方もこちらに来ていただいて、実際の山を見ていただいた上で、間伐の場合は切り方が、切り口の直径と長さの関係というのが、やっぱりそれによって需要が全然違ってくるというようなことも指導していただきながら、この山なら何メートルぐらいで切り出ししていくのが一番高値がつくとか、そういう指導も担当の方に教えていただきながら、そういう今ちょっといかだの需要も増えてきているということです。そういったところへも使っていけないかなというのは、ちょっと相談は進めております。

○仲委員　最後に。

今までの考え方の中で、主伐が、１０ヘクタールが、今回は５７ページに示されているように０．３ヘクタールということで、コロナ禍の影響とか材の市場での価格という中ではこういうふうになっておると思うんですけど。

やはり今先ほど説明いただいた間伐材の利用促進が生きてくれば、より主伐もよくなるという中では、ええ方向だと思うんですけど、あくまで間伐材の利用促進をどうしていくかということも、やはりこれから注視していく必要があると思うんですけど、いかがですか。

○芝山水産農林課長　全くおっしゃるとおりでございます。我々もそこが一番ポイントになってくると思って計画を今立てているところでございまして、５年から１０年くらいの間の市有林の管理運営の仕方をどうしていくかというのを、今ちょっと構想のようなものを今ちょっと取りまとめておりますので、そういったところにもその今の考え方を反映して、間伐材をどのような形で出していくのか、需要がどのくらいあるのかというような川下側の計画もそこには踏まえた上で、ちょっと構想をつくっていききたいというふうに思っております。

○仲委員　分かりました。

○野田委員　一つは、この１９５ページの一般振興事業のところ、今回、補助金、地域おこし協力隊ということで、天満地区のアマナツの対応をしていただいたことは非常に僕いいことだと思っております。３年ぐらい前かな、そこから需要を掘り起こしがあったということは、本当に水産農林の方の一つ成果だと思っております。

ます。

ほいでその中で、先ほど話もありました三木里の農業のほうのヘクタールというか、農地も拡大してやっている中で、販売という部分がやはり非常に、6次産業というか、販売という部分が非常に大きいと思うんですけども、この点については、水産農林だけじゃなくて、横串をやっぱりしっかりしていけないといけないと思っ
ていまして、この間、三木里の農業をやられる方の一部とちょっと話をさせてもら
ったんですよ。

たら、その中で、やはり売り先とか、そういう分については、やっぱり自前の力
がないから非常に難しい部分があると、今の農業収入も含めてですね。やっぱりそ
こら辺は我々の尾鷲市として、やっぱり収入を上げていただくことによって税金が
増えるというような感覚を持っていかないと、なかなか中電もなくなった後ですの
で非常に大変になります。そこら辺いかがですか。

○芝山水産農林課長　　売り先という点につきましては、例えば新規就農者の方の
具体例でいきますと、今、向井のほうの農家の皆さんともちょっといろいろ夢古道
おわせなんかも間に入っていて、販路というものをつくっていかうとしてい
ることと、それと、向井の農業者の皆さんと連携しながら、お互い補い合いをしな
がら作農しているというところがございます。

また、私たちとしましても、その販路としての、例えばスーパーであったりとか、
そういった需要というか、そういう供給体制が整ってくれば、どんどんどんどんも
ちろん紹介をしていきながら、まずは今どういったものを作っていって、どのくら
い出していけるのか、販売に回していけるのかというようなところを、定期的な相
談会の中で今お話をさせていただいているところでございます。

○野田委員　　ひとつよろしくをお願いします。

それと、201ページの林業一般経費のところなので……。あっ、違う、一般経
費やないわ、もう一つの林業……。あれっ、要は200、201ページのところの
林業一般経費の上のところのみなと……。

○南委員長　　みなと。

○野田委員　　みなと森と水ネットワーク会議負担金というのが、5万円というこ
とで上がっています。要は何を言いたいかというと、要は販売促進という部分で、
林業についてもやはりこれまでずーっとやってきていただいているけれども、要は
もうパターン化してしまっていて、何が大事なのかという部分が、何に力を入れないと
いけないかというのがちょっと不透明な感じがしまして、やはりこういうところを、

林業の販売促進を十分やっているところはこういうところに力を入れて、アンテナを張り巡らしてやっているんですよ、いろんな地域において。

だから、ただこういう負担金をつけるだけじゃなくて、そこで何が、尾鷲林業のブランドとして何ができるかということを十分やっていかないと、この木材需要の拡大にはなってこない。もうコロナ禍でどうこうといういろんな理由を言われるかも分かりません。そうじゃなく、その前からそういう部分はやっぱりちょっと本腰入れてやるべきじゃないんかと思っていますが、いかがですか。

○芝山水産農林課長　確かにコロナ禍で動けていないというのは事実なんですけれども、数年前から、こういう港区のネットワークに参加をして、毎年毎年、そのネットワーク会議の中にも、会議にも参加をさせていただいて、また展示会などで、展示会にはここは工務店とか、あと港区にオフィス、ビルを構えようとしている企業とか、そういったところが集まってきますので、そこで全国のそういうネットワークに入っている産地が、いわゆる材の売り込み合戦をするわけです。

そういったところに、尾鷲市も、尾鷲ヒノキというブランド名を持って、またそこで効果を出すためには、抗菌効果検証も数年前からやっておりますので、そういったパンフレットを持ち込んで、尾鷲ヒノキ、ほかの産地のヒノキとは違う、こういうエビデンスを取っていますとか、そういう売り込みをずっと今まで続けてきて、今に至っていると。

今年度の動きとしては、たまたまコロナで動けておりませんが、これはもう明け次第、またすぐ、また出かけていくなり、そういうネットワーク会議にも参加して、実際のどういう企業がどういうところにビルを建てようとしているかというようなところを、もう営業をどんどんかけていきながら、尾鷲ヒノキというもの、売り込みをかけていって、実際今、一部というか、東京のほうのオフィスの中に尾鷲ヒノキ、玄関ホールのところに使われているとか、そういう事例も出てきてはおりますので、それは尾鷲の製材屋さんが営業をかけていって使われておりますので、そういったところをどんどん積極的に、可能性は十分あると考えております。

○野田委員　そういうことで、この地域産業のブランド力がある中で、やっぱり縮小していく感じでは駄目ですので、やっぱりここら辺は本腰入れてやっていくということが、前からも分かり切ったことですのでけれども、何が問題か、何でよかったのか、ほいで成果がなかなか発表されていない部分がありますので、こういう部分でこういう成果がありましたよという部分は、やっぱり周知徹底していかないと自信につながっていないんですよ、これ、業者の方もね。

そういうことで、ひとつよろしくお願ひしたいということと、次に、漁業のほう、水産のほうですけれども、215ページのつくる育てる漁業の展開というところがあるんですけれども、僕以前からも言っているんですが、カサゴの放流とか、アオリイカの間伐材を利用したそういうことで、ある程度というか、そういう部分で、この近海のところが豊富な漁業資源というような形になってきていると思うんです。

その中で、やっぱり調査をきちっとしていかないと、ただ50万かけて放流するだけじゃなくて、漁業者の方がどういう成果であって、収入が来ているのかとか、そういうやっぱりヒアリングをしていかないと、ただやるだけでは、僕はもうこういうふうな衰退というか、減少してしまうと思っています。やっぱりやったことに対する成果を、聞き取りをということを思いますので、その点どうですか。

○芝山水産農林課長　委員おっしゃることもっともなんですけど、我々、そういう調査をしていないとかということはありませんので、こういう負担金を出すからには必ずその成果報告というのを求めていますし、協議会形式にもなって、そういう調査もちゃんとしっかりやっていただいておりますので。

例えばですが、カサゴなんかではエラを切って放流したりとか、マークをつけて放流したり、そこで水揚げのときの混入率というようなものちゃんと把握をした上で、今年度は何%ぐらい混入率があったというようなことで、大体多いときは、カサゴは20%から25%ぐらいの混入率が報告されているというようなこともありますので、そういったことをしっかり見極めながらやっておりますので、御了承ください。

○野田委員　要は水産漁業に対して、やっぱりこの尾鷲漁業の水産の発展ということに関しては、やっぱりいかに養殖業者、コロナ禍でいろいろヒアリングとかやっていただいておりますけれども、やっぱりどこが牽引していくんかというところを十分見極めて、そういう人、そういう事業者とのやっぱり意見交換なり収集をしていくということは必要かと思うんですけれども、補助金制度のことについてもですね。そこら辺は、1年間でどのような体制づくりをされているのかなという、お願いします。

○芝山水産農林課長　水産プロジェクトのときでも申し上げさせていただいているんですけれども、これまでもいろんな計画は位置づけはしてきているんですけれども、なかなかその計画どおりに動き切れていなかったという部分が実際確かにあります。

それが水産プロジェクトによって、私たちは、誰がどういう役割で何をしないと

いけないのかというのを、そこまでちゃんとかみ砕いた上で計画を立てさせていただいておりますので、行政は何の部分で事業者の応援をしないといけないのかというところを、このプロジェクトのロードマップの中には落とし込みをさせていただいております、例えば養殖でありましたら、必ず今データをしっかり取りながら、そのデータの分析、解析を育て方にフィードバックしていくと。それは、うちの水産の技師だけではなくて、水産研究所とも連携をしながら、そういったところ、専門機関がそういう、今この高水温化が続く中でどのような形の育て方がいいのかという研究を業者の、業者はなかなかデータを取ったり、そういうことを蓄積するというのはできませんので、そういったところの部分を受け持ちながら、なるべくへい死率を少ないような形に持っていくとか、そういうような形で、プロジェクトの中に我々の役割というものを落とし込みをさせていただいて今動いておって、そのようなヒアリング、定期的なもちろんそういう事業は進めております。

それと、もう一つは、先ほども少し申し上げさせていただきましたけれども、水産物の啓蒙というところ、啓発というところも、私たちはデータを基に出していかないといけないというふうなところで、特にPR動画を作ったりというようなソフトな食育につながるようなことから、実際の研究的なデータに基づいた情報発信というところを使い分けながらやっているところでございます。

○野田委員　最後に。

向井地区にブルーベリーとかアボカド、ライムとか、いろんな柑橘類の新規事業をやろうとしている事業先もあります。その中で、やはり行政としてやっぱり育てていく、サポートしていくということは大事なことかと思えます。一事業先にどうこうするという意味じゃなくて、この地域でやっているところのやっぱり事業を継承していく、発展していくという部分では、やっぱりこれは、繰り返しになりますけれども、やっぱりサポートというのは大事だと思います。

ただどこかに視察に行ってやるだけじゃなくて、やっぱり専門性とか、そういう部分も、三重大等の関係もあるかも分かりません、そういう専門知識の。やっぱり行政がパイプ役となって、やっぱりサポートする、そういう、ただ何年かかってできたらいいという問題じゃなくて、果実がなったらいいってもんじゃないで、やっぱりそこら辺のサポートも、今後意識してやっていただいていると思いますけれども、お願いしたいと思いますので、ちょっと要望をお願いします。

○芝山水産農林課長　その辺りもしっかり取組はさせていただいております。例えば向井にできました新規事業所につきましても、定期的なヒアリングをさせてい

ただきながら、まず、どういう戦略を持って経営されているのか。農業につきましては、とにかく産品をたくさん生産する、いわゆる産地としての生産の仕方と、それから6次産業化、商品開発を目指していくと、いろんなやり方があると思いますので、その辺り企業のほうにも戦略を教えてくださいながら、そういう役割の中で、では、私たちはどうしたらいいのか。特にあそこであれば、夢古道がすぐ真下にあるわけですから、やはり夢古道とどういう連携をしていけばいいのかとか、そこで行政はどういう役割をするのかというようなのは、定期的に情報交換と一緒に……。情報交換というよりも、もう実施体制をもう今つくって動いております。

○奥田委員　　すみません。さっきの野田委員言われた農産物の販売の件なんやけれども、ちょっと関連でね。

僕は、逆にちょっと水産農林課を擁護するわけじゃないんやけれども、この前、三木里のキッチンカー、あれが古江で船に乗っておるのを見たんですよ。おでんかなんか売ってましたわ。そのときに、三木里で、若い人、農業を一生懸命、よそから来てくれてやってくれている人、あの人と一緒に野菜を売りよったんですね。ほんで僕も買うたんやけれども。ああいうのが、あっ、だから僕は、水産農林課は、この地域おこし協力隊の管轄の政策調整課とか商工観光と連携して、こういうことをやっておるんやなと思うたんやけど。そうじゃない。そういうことをいろいろイベントとか、ああいうのをうまくつくって、いいことやなと思うたんやけど。

○芝山水産農林課長　　ありがとうございます。政策調整課の地域おこし協力……。

○南委員長　　挙手をして発言を求めてください。

○芝山水産農林課長　　委員長、すみません。

政策調整課の地域おこし協力隊の担当部署ともいろんな取組とか、企画段階から今一緒にいろいろ、先ほどの向井の農園の話もそうなんですけれども、天満地区の地域おこし協力隊とか、そういったところ、あそこはふるさと納税の産品を開発したりというような活動の中でも、一緒に企画段階から作り込みを一緒にさせていただいておりますので、そういったところは徐々に出てきてくるのかなというふうに思っています。

○奥田委員　　今後もそういう各課連携を取ってやっていただきたいと思うんですけど。

それで、予算書で1点だけ教えてください。

200、201ページのところですね。主要施策の予算概要で言うと50ページなんですけど、有害鳥獣対策事業ね。これの報償費が441万円ということで、先

ほど補正予算のときに、これ、令和２年度と同じですという話でしたよね。

これ、主要施策の予算概要を見ると、猿が７０頭、イノシシ１００頭、鹿が３５０頭かな、全部で５２０頭あるんやけど、さっき補正予算のときに、野田委員もちょっと聞かれていましたけど、令和２年度、今年度は４００ちょっとということで少なかったということやけれども、これが以前は足りないというお話で結局増やしたんじゃないかなと思うんやけど、増やした時期がありましたよね、数年前に。

これ、今これは減っているというふうに理解したらええのかな。どういうふうな……。それともおるんやけれども、猟友会のハンターの方が捕っていないのか、どういうふうに担当課としては見えていますか。

○芝山水産農林課長 猟友会の今メンバーの中で、大体いつも猟に出て実績をいただいている方は、この数年間ほとんど変わってはいないんですね。猟に出ていただいている回数も、ずっといろいろお話を聞いている中では、全く減っているということはないんです。

やっぱり遭遇率というんですか、そういったものが数字として出てくると、年間、数字として集計を取ってみると少ないということは、猟に出ていただいている人数とか回数は減っていないというふうに考えていますので、その辺りはやっぱり遭遇率、捕る捕獲率が減っているのかなというふうな感じは受けてはおります。

○奥田委員 あれ、結構輪内とか、山側の旧町内というと、倉ノ谷とか、あっちのほうですので。減っているとは聞かないもので、依然として被害あるというのは。ちょっとあれですけど。

それで、市長の市政報告の中でもありましたけど、タヌキ、アナグマ、ハクビシンの生活環境被害が増えておるんだという話がございましたけど、これの対策というのは、どのような対策なんですか。予算書で言うとどの辺がかかってくるのかなというのを教えてください。すみません。

○湯浅水産農林課長補佐兼係長 対策というのは、通報いただいて、あまりにもしつこいような小動物、何回も出てくるんやとかという通報をいただくと、うちで敷地の中でこういう捕獲器を仕掛けさせていただいたり、そういう対策を今取っているんですけども、このアナグマ、タヌキ、アライグマとか、そういう小動物については報償金制度というのはございませんので、これは予算書に表れてくる部分というのは一切ないんです。

あくまでこの予算に表れてくる部分としては……。あっ、消耗品とか、そういうのは関連してきますけど、基本的に報償金としては小動物についてはないので、あ

くまでイノシシ、ニホンザル、ニホンジカについての報償金ですので、その部分は予算書、予算には反映してきません。

○奥田委員　　したら、市政報告の中で、たしか市長は獣害パトロール員の活動という、これは分かるんですけど、猟友会の協力も得ながらということをやられていたんやけれども、猟友会は、でも、報償金がないんやったらどのような協力をしてくれるのかなと思ってですね。

○芝山水産農林課長　　今猟友会の皆さんにも、例えば資格の中で、わなをかけるという資格が必要になってきますので、例えば獣害パトロール員がすぐに出回っていけないような、例えばところであつたら、そういうような協力体制は取っていただけるように、日頃から猟友会のほうにもお願いはしております。

○奥田委員　　それ、協力してくれるんやったらええけれども、報償も補助金もないのに、ボランティア的なことになると思いますけどね。分かりました。

それで、捕獲器というのは幾つぐらいあるんですか。

○湯浅水産農林課長補佐兼係長　　小動物の捕獲器については、たしか20ぐらいあったと思いますけど。

○奥田委員　　この前、輪内の自治会、地区会の役員の方が言われておったんやけれども、なかなか、言うても旧町内のほうが今多いんやと行って、わながもう、捕獲器ですか、輪内のほうに回ってこんのやというちょっと苦情を聞いたけれども、そんなことはないのかな、大丈夫ですか。大丈夫ですかね。

○湯浅水産農林課長補佐兼係長　　大体1週間から2週間ぐらい仕掛けさせていただいて、空きが出たら待っている方にすぐ仕掛けするという形を取っていますので、言ってくださいとお伝えください。

○南委員長　　他にございませんか。

○小川委員　　2点ほどお伺いします。

予算書に載っていないんですけども、ひょっとしたら215ページあたりかなとは思いますが、今養殖業者の方、魚価の低迷とコロナの影響によって魚もなかなか売りづらいというのがあって、ほいで、魚病なんかにも困っていて、ワクチン接種とか結構マハタだけじゃなしに、ワクチン接種、シマアジなんかでもワクチン接種しておりますし、そういったやつのやっぱり生産量上げるためには、水産業のために、三木浦とか尾鷲とか養殖業が大事だと思うんですけど、多少ワクチンとかそういうの、補助金というのをつけるべきだと思うんですけど、その点はいかがなんでしょうか。

○芝山水産農林課長　　今なかなか、確かに以前からそういう、我々も話はずっと俎上には上げてはいるんですけども、ワクチンの補助になかなか今、そこへ踏み切ることができずにあります。

ただ、県のほうにも、養殖業者は一律県同じですので、県のほうにもそういうお願いをする中で、その補助というところは、今のところ、予算化には至っていない状況です。

○小川委員　　いや、本気で水産業を守ろうと思うんだったら、補助金、少しでもつけたほうがいいと思いますので、また検討していただきたいと思います。

それで、予算書の２２３ページ、水産基盤ストックマネジメント事業がありますけれども、これって順番が決まっているのかどうか、また、順番の基準とか優先順位とか決まっているのか、まず、それをお答えください。

○芝山水産農林課長　　一応計画、国のほうに計画申請をして、その申請内容に基づいた進め方をしておりますして、今年度は行野を２か年で終わらしまして、３年度、４年度で九鬼漁港に入っていく。その後は、梶賀漁港のほうだったと思うんですけど、そういう計画は立てております。

○小川委員　　課長はもう御存じだと思うんですけど、今度、鮮度保持とか魚の安全性、利便性のために、梶賀方式が船、造りますよね、国の事業を使って。そのため、今のままでは直接岸壁につけられないというのを問題、聞いていると思うんですけど、要望もあったと思うんですけど、その点についてどのようにお考えなのか。

○芝山水産農林課長　　今梶賀のほうで新しい船を造船している中で、確かにそういう相談はいただいておりますので、今のところ、目下のところは、九鬼なんかでもやっていたように、喫水の関係がありますので、間に船を１台挟んだ形で、当面、それで対処していただくようお願いもしているところですけども。

ただ、その湾の中の、例えば喫水を下げていくとか、新しい護岸整備ができるかどうかというところは、また、今何か大きな置き石があったりとか、その辺の強度の関係というのが、どこまで工事でそういうものが必要なのかどうかということも、ちょっとまた見せていただいて、ちょっと対応させていただきますというふうに大敷のほうにもちょっと話はさせていただいておりますので、そういった際には、こういうストックマネジメント事業とか、ほかにもインフラ長寿命化計画とか、そういったものもありますので、そのときに一番有意なものを必要に応じて考える必要があるのかなというふうには考えております。

○小川委員　　大体それはいつ頃になるのか、それをずるずるずるずる行ったら、

ずーっと先になるんじゃないかという気があるんですけど、大体いつぐらいですか。

○芝山水産農林課長　梶賀、今大敷のほうと話をしておりますのは、実際、喫水が本当に足りないのかどうかというところですよ。そこら、その辺を実際施業してみても、まずはそういう船を1台間に挟んだ中で、本当にいよいよもうこれはもう施業にならないとか、そういったような事例が出てきたら、今多分、本当に大漁でもう満船になるまで積み切った場合は、そういった可能性はあるというふうには聞いているんですけども、じゃ、常時そういう満船になる可能性がどこまであるのかとか、そういったことも優先順位の中で、すごい大きな事業になりますので、その辺りをちゃんと見極めることもこちらのほうが必要になってくると思いますので、その辺りはちょっと大敷さんのほうともいろいろ話はさせていただいているところですよ。

○小川委員　満船になれば、梶賀につける必要ないんですよ。満船になったら尾鷲まで直接来ればいいことで。したら、ふだんの利便性が悪いということで何とか早くしてあげてほしいということで、また考えておいてください。

○楠委員　予算書の203ページ、一番下段の……。

○南委員長　間もなく正午の時報になるため、ちょっと中断します。

(休憩　午前11時59分)

(再開　午後　0時00分)

○南委員長　正午を過ぎましたが、このまま委員会を続行いたします。

○楠委員　203ページの尾鷲みどりの基金事業委託料ですね。

これはなかなかいい事業なので、私自身ちょっと前からちょっと思っていたんですけど、市のホームページで、もう何年も魚が泳いでいて魚が疲れていると思うので、子供たちのこの活動の動画を継続して流して、尾鷲市でこんないい自然体験できるんだよというふうなPR、プロモーションビデオを作ってやったほうが、これからのために初期投資が有効なんじゃないかと思うんですけど、市長、その辺どうですかね。

○加藤市長　楠委員おっしゃるように、こういうみどりの基金を使いながら、いろんな自然との触れ合いというのをやっぱりいろいろやっていかなきゃならないと。その中で生まれてきたのが、最近ずっとやっぱり活性化しているのは、子供たちが自然と触れ合いながらいろんな活動を起こしているという、これが非常に活発化している。

具体的に、これは……。じゃないんですけれども、要するに安藤財団がやっているトム・ソーヤーのあれとか、2回連続入賞したとか、これ、正直言って、尾鷲市において、私は自慢できる話だと思うんです。自慢できるものは、おっしゃるように、そういうものはやっぱりきちんとPRすべきだと思います。

その中で、おっしゃっているPR動画とか、そういったのもって、そういう具体的な形の中で尾鷲をアピールできるものは何なのかということ、それを訴えたいと思っているんです。その御意見に対しては、十分検討に値するものだと思っておりますので、検討させていただきたいと思っております。

○楠委員　もうこの活動は、私も子供たちに情操教育にはもう最高のものだと思うので、もうこれ、継続してやっていって、もうそれこそどこからでも遊びに来てもらえるチャンネルじゃないかなと思うので、ぜひ今市長がおっしゃったように取り組んでほしいと思います。

○三鬼（和）委員　ちょっと質問へ入る前に、先ほど楠委員が質問した中で、動画とあって正面にと言っていましたけど、あれですか、ホームページを更新する考えで答弁されたんですか。今のホームページだったら無理だと思うんですけど、どうなんですか。

○芝山水産農林課長　楠委員、ホームページを言われましたけど、ホームページは契約の関係がありますので、ちょっと無理ですので、今、公式ユーチューブとか、もちろんホームページの中に動画を落とし込むということは可能です。それで対応します。

○三鬼（和）委員　SNSではちゃんと見ますけど、今楠委員の質問では、ホームページ正面どうかという話でしたので、きちっと答弁していただきたいなと。

先ほども小川委員が言われたように、2目の水産振興費の中で、コロナ禍の中で、やはりマハタがワクチン2遍、2回打ったところは死なず、死ぬのが少なかったということがあって、今年も既にこの3月の時点で桜が咲いたりというて、気候も温暖化というんか、しておるようなので、水温の問題等々もありますのでですね。

県の人事なんかも聞くと、担当、この地域の担当者も変わらず、部長さんが引き続いて、横田さんかな、引き続いてくれるようですので、そういったところも考えて、やっぱり市長、県にもお願いして何とか。

私、217ページの水産振興補助金の中でそういうのはないかなとちらっと見たんですけど、骨格予算ということがありますので、また再編成の折には予算追加できることもあろうかと思うので、ちょっとその辺真剣に、マハタ事業ですか、海面

養殖も強化していこうと思うたら、これ、もし去年の同じ、２年度と同じ轍を踏むようなことがあると、打撃も大きいと思いますので、ちょっとその辺、実際検討も話し、取り組んでいただくという返事をいただきたいんですけど、いかがですか。

○加藤市長　　現在、その仕掛けはやっております。特に県会議員とも、尾鷲選出の県会議員ともいろいろこのマハタについて、焦点を絞ろうじゃないかと。マハタ事業というものは、尾鷲においてその生産量が３分の２以上あると。それをやっぱりうまく生かしながら、それがマーケットにつながるような形も取る。

その前に、やっぱりマハタというのは、要するに結構生産がうまいことでいい。そのためのワクチンなんですよ。それをワクチンというものに対して、県に対してどういうふうにして働きかけていくか。県議のほうは県議のほうで三重県のほうに働きかけていて、同時に尾鷲市としても、農林水産部のほうに、これは働きかけていきたいと。

やはりこのあれについては、やっぱりブランドというのは私は絶対大事にして、それをまた武器にして尾鷲を生かさなきゃならないと思っておりますので、それは必ずやっていきたいと思っております。

○三鬼（和）委員　　幸か不幸かという表現はどうかと思うんですけど、コロナ禍の中で、先ほど東県議におかれても漁業というんか、海面養殖なんかもかなり勉強した中で、コロナ対策を考えてくれておったようですし、担当の部長においても地元へも問い合わせたりとか、足しげく通っていただいて、今の実態を理解していただいておりますので、何とか生産者を助ける政治というんか、一番弱いところへ力を入れるという政治を行っていただきたいと思いますので、お願いしたいと思います。

○野田委員　　ちょっと１件だけ。

２１９ページの藻場の進捗なんですけれども、数年前から藻場の研究というか、やっていると思うんですが、その点、ちょっと状況と効果というか成果を教えてください。

○中世古水産農林課主幹兼係長　　これまで尾鷲湾とか、九鬼浦、早田地区におきましては、磯焼け域での継続的なウニ、ガンガゼ駆除によりまして、サガラメやヨレモクモドキとかマメダワラなど、海藻が増加傾向にあることが確認されております。

新たに組み込まれている三木浦地区では、除去区には小型海藻の生育が見られる

ものとか、新たなガンガゼの幼体が多く見られることから、継続的な取組が必要とされております。

三重大大学の調査結果によると、ガンガゼ、ウニ類の生息密度が1平米当たり2個以下となれば、もう再生が可能とする報告が示されており、うちのほうの職員も実際に海域に潜りまして、このモニタリングを行ったところ、1平米当たりに今2個以下となるというような、実際もう見られておりますので、効果は徐々に現れてきていると思われます。

以上です。

○野田委員 ありがとうございます。

○南委員長 他にございませんか。

○三鬼（孝）委員 5の4の2の219ページですけれども、漁業共済事業負担金が324万8,000円計上されて、昨年より47万円程度増えておりますけれども、この事業内容をちょっとお示してください。

○芝山水産農林課長 ぎょさいと言われる赤潮特約に対する保険でございまして、対象魚はハマチ、タイ、マハタ、シマアジでございまして、これは実績に応じて、前年実績に応じて計上しております。

○三鬼（孝）委員 そしたら、対象数が増えたということによろしいんですか。

○芝山水産農林課長 前年度の実績が増えましたので、今年度増えて計上させていただきまして、例年、実際使った結果によってまた補正で対応させていただくと、減したり増したりするということです。

○三鬼（孝）委員 分かりました。

それと、221ページの漁港の公園管理費に絡みまして、予算には関係ありませんけど、三木浦海浜公園ですね、海浜公園。要は去年の9月の大雨で、人口砂が相当流出して、これ、三筋ぐらいどえらい陥没したような関係になって、その後、県は何も修理せなんで。その辺は、課としては現状把握して、県へ向けて申請していますか。

○芝山水産農林課長 すみません、海浜公園につきましては、今三鬼委員おっしゃられるように、県の管理になっていまして、当課は管理の委託を受けているのは商工観光課のほうになりますので、また我々としましても、また県のほうにも確認はいたします。

○三鬼（和）委員 すみません。214、215なんですけど、つくり育てる漁業の展開の中で、補助金で銚子川漁業協同組合種苗放流事業補助金というのを28

万、本市も出して補助しておるわけなんですけど、これって市内の方の漁業者というのかな、個々の銚子川漁業協同組合の組合員さんというのは尾鷲市内の方もいるんですか。これはどういった基準でこの金額になるんですか。

○芝山水産農林課長　この放流事業につきましては、内水面漁業にはなるんですけれども、上流、又口川のエリアで尾鷲流域も含めて放流をしていただいているということから、例年ずっと補助をさせていただいているというふうに聞いております。

○三鬼（和）委員　組合員とか、そういうあれじゃなしに、又口川が尾鷲に関わっておるということで負担をしておるということですね。これは、負担率はどれぐらいなんですか。それは分からん。全体の放流の中の半分、何十%かとかというの。

○芝山水産農林課長　すみません、ごめんなさい。

すみません、今ちょっとそこの資料を持ち合わせておりません。申し訳ございません。

○南委員長　他にございませんか。

ないようでしたら、１点だけ私のほうから。立木売却収益ということで、今年度から新たな方向でいくということで、間伐材を有効利用したいということなんですけれども、以前から県のほうが、間伐材ですね、尾鷲の間伐材が岡山県のカキ養殖に最もふさわしいということで、立米６万円ほどするらしいという話を聞いていますので、ぜひともそういった意味での、御存じだと思えるんですけれども、話はもう試験的にも進めていただきたいなと思います。

他にございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○南委員長　それでは、ないようですので、水産農林課の所管の審査を終了いたします。ありがとうございました。

午後は１時３０分から行います。

（休憩　午後　０時１３分）

（再開　午後　１時２８分）

○南委員長　休憩前に引き続き委員会を続行いたします。

次に、商工観光課、議案第１６号、令和２年度一般会計補正予算（第１１号）の所管の説明をお願いいたします。

なお、本日は、この商工観光課で審査を終わりたいと思いますので、よろしくお

願いいたします。

課長、お願いします。

○森本商工観光課長 商工観光課です。よろしくお願いいたします。

それでは、議案第16号、令和2年度尾鷲市一般会計補正予算（第11号）の議決についてのうち、商工観光課に係る御説明をさせていただきます。

歳出のほうでございます。

補正予算書の50ページ、51ページのほうを御覧ください。

6款商工費、1項商工費、2目商工振興費でございます。補正前の額2億6,349万3,000円、補正額42万4,000万円を減額し、2億6,306万9,000円とするもので、減額の財源内訳は全て一般財源でございます。

細目商工振興事業のうち18節負担金、補助及び交付金における負担金、紀北雇用開発会議負担金7万円の減額は、新型コロナウイルス感染症の影響により本年度事業実施が困難となったため、負担金を減額するものでございます。補助金、尾鷲市中小企業融資信用保証料補給金33万円の減額は、額の確定に伴う減額でございます。

次に、産業開発促進事業負担金の2万4,000円の減額は、コロナ禍に伴い中止となりました物産展出展負担金の減額でございます。

次に、3目観光費でございます。補正前の額6,046万3,000円、補正額409万4,000円を減額し、5,636万9,000円とするもので、減額の財源内訳は全て一般財源でございます。

細目観光振興事業補正額210万6,000円の減額につきまして、12節委託料、観光パンフレット及びリーフレット作成業務委託料28万6,000円の減額は、入札差金による減額でございます。

次ページのほうを御覧ください。

18節負担金、補助及び交付金、国立公園都市協議会会費2万円の減額、南部地域活性化基金事業負担金20万円の減額は、いずれもコロナ禍によって事業中止となったことに伴う減額でございます。補助金、尾鷲節コンクール補助金160万円の減額は、コロナ禍によって本年度の開催中止を余儀なくされ、開催関係者の皆様及び参加者の皆様への緊急報告、また次大会へ向けての関係者の皆様とつながりに要する費用40万円を除き、160万円を減額するものでございます。

次に、細目熊野古道活用事業委託料、ウォーキング大会運営委託料160万円の減額は、コロナ禍によって海・山ツーデーウォーク中止による減額でございます。

次に、細目観光施設管理整備事業、13節使用料及び賃借料、すみません、トイレリース料13万2,000円の減額につきましては、コロナ禍に伴い、黒の浜への簡易トイレ設置を中止したことによる減額でございます。14節工事請負費25万6,000円の減額は、夢古道おわせテラス手すり改修工事における入札差金の減額でございます。

以上が、令和2年度尾鷲市一般会計補正予算（第11号）についての説明とさせていただきます。御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○南委員長 ありがとうございます。商工観光の補正説明は以上でございます。

御質疑のある方。

○奥田委員 1点だけ教えてください。

補正予算書52、53ページのところ、今の尾鷲節コンクール補助金ですね。160万減額ということで、40万円除きという話でしたけど、もうちょっと詳細、教えてもらえませんか、40万というの。

○世古商工観光課係長 この40万円の内訳なんですけれども、案内文書、先ほど課長のほうから説明ございましたように、案内文書の送付でありますとか、あと民謡協会、日本民謡協会などの協会誌への広告代、それから、節コンの優勝者、昨年の優勝者が参加する全国の民謡フェスティバルがございますけれども、そちらの審査料、出場料などでございます。

以上です。

○奥田委員 何ですか。ちょっともう一回……。

○南委員長 もうちょっとゆっくり言うておってくれる。

○奥田委員 もうちょっとゆっくり言うて。案内文書は分かったけど、その後、ちょっとよう分からなんだ。

○世古商工観光課係長 失礼しました。

日本民謡協会の協会誌への広告代、それから、節コン、前回の大会の節コンの優勝者の方が参加する全国の民謡フェスティバルへの審査料と出場料などでございます。

○奥田委員 その案内文書とか、準備に入ったということやで、そこは分かるんですけど。

あと何でしたっけ。民謡協会に対する広告、何の広告というのと、それから、節コンということは尾鷲節コンクールということの何、全国大会審査料って何、その審査料とあって、出場、そんなのまで尾鷲節コンクールのこの予算に入っておるん。

○世古商工観光課係長　　まず、協会誌への広告代なんですけれども、次回大会の……。

（発言する者あり）

○世古商工観光課係長　　はい、大会の広告について載せたりするものでございます。それから、優勝者の民謡フェスティバルへの参加料に関しましては、優勝された方に対して、これに出場していただけるという条件がありまして、その分を尾鷲節コンクールのほうで持たせていただいているというような状況でございます。

○奥田委員　　ちょっとよく分からんのですが、準備にかかったお金は分かるんやけどね、その案内文書とか。あとちょっとよく分からないんやけれども。

次回大会の、これ、次回大会は、これ新年度予算でええやないですか、別に。でしよう、11月にやるんやで。今これ、これを差し引く必要ないと思うし、全国民謡フェスティバルの出場の何か審査料とか、よう分からなんだけれども、何で審査料まで持たなあかんのかというと、それ、これまでもそういう出場料、そんなのまで持っておったん、尾鷲節コンクールの費用で。尾鷲節コンクールの大会の運営、大会だけのあれじゃないんですか、この補助金というのは。そんなところまで持っておった。

○森本商工観光課長　　実際、使わせていただく金額につきまして、やはり次の大会、次の次回大会という話でちょっとさせていただいている部分に関しましては、やはり前年からちょっと準備をさせていただく、35回続いております、脈々と受け継がれておりますその出場者の方への部分、つながりを大切にしたいという思いも込めましてさせていただいている部分が、前年で今、今年度使わせていただいている部分でございます。ですので、次大会につなげるためという形でさせていただかないかというふうにさせていただいているところでございます。

運営に関しては、実際のところ、これもやっぱり歴史がちょっとございまして、つながりを大切にさせていただきたいという部分が、いわゆる出場者の方へのとの部分という部分でさせていただいているところでございます。

○奥田委員　　つながりがどうのこうのって、それは各イベントそうでしょうから、これだけじゃないでしょう、毎年毎年やっておるんだからね。ほいで、それで開催しなかったのに40万使ったらですね。

今の説明聞いていて、僕、市民の方、これ、納得すると思う、これで。40万って大きいですよ。街灯一つつけるお金、予算ないですよ、今。40万あったら街灯つけられます、幾つつけられると思うんですか。そのつながりのためとかね。いや、

こんな全国大会に行かん……。個人負担でええやないですか、そんなの、審査料まで出すって言うて、それでちょっと意味が分からなかったけれども。審査のために出すの、その審査料の全国大会に、民謡協会の、民謡フェスティバルに出る、民謡フェスティバルの審査料まで出すの、そんなの。そんなところまで、尾鷲節コンクールの補助金ってそこまで出していたの、これ、これまでも。信じられませんね、あなた方の本当、これ。そんな、だって、これ、11月でしょう、今、これやるのが。それは、だって新年度予算でいいじゃないですか、そんなもん、これ。そんなつながりのためだって、それを呼んでイベントしなかった年に40万もあれして、実施しなかったんですから、これ。だって、もうコロナのことも分かっておって、できないだろうという予想はついてたやないですか、新年度入っても、去年。ほいで、つながりのため、つながりのためとか、全国、この全国、全国大会のための審査料とか、その審査料の意味が分からんけれども、出場料だとか、そんなのまでこんなところで持つの、補助金で。例年持っていたということですか。これ、ちょっと監査、どうしておったんかなと思うけど、こんなので補助金要領大丈夫なんかな、こんなの。

○南委員長 監査はともかく……。

○奥田委員 補助金の、これ、大体尾鷲節コンクールを開催するためってみんな思っていますよ、これ、開催するため。それで、これに入っていないんですよ、皆さん今、市役所の職員には残業手当をつけて、80万か100万使うてですよ、それも、そんなのまであってですね。幾ら使うておるんですか、これ。大会のため、純粋な大会のためってみんな思っていますよ、これ、二百何十万も使うてですね。これまで市長就任したときも30万追加予算をつけたけれども、当初予算が上がっておるのに、追加予算をつけるなんて、僕はそんなもの前代未聞やったけどね。

何でこの大会、僕は大事ですよ、尾鷲節コンクールは、大事だと思います。僕も実行委員、3年ぐらいやったことあるで、分かっています、中身は。でも、そこまで僕は補助を出したとは思わなんだな、これ。ここまで特別な大会ですする必要はあるんですが、これ。だって、古道祭りなんて、前100万あったら、今ゼロですよ、補助。ほかのイベントは全部削っておいて、何でこれだけ優遇されるんですか、これ。何かあるんですか、これ、特別な意味が。

○南委員長 答弁をもらいます。

○奥田委員 ちょっとおかしいんじゃないですか、これ、40万も、これ、開催もしていないのに。

○森本商工観光課長 特別扱いという形ではちょっと考えていないとの部分はありますが、ただ、35回も続いておりますコンクールでございますので、我々としてはつながり、先ほど何回もつながりはおかしいと言われてはいますが、しかしながら、伝統文化の継承のことでございます。たくさんの方が、そういった形でこちらのほうに見えていらっしゃる部分がございます。その点に敬意を払いまして、させていただいている部分がございます。御挨拶回りもそうでございますし、やはり一旦途切れてしまうと、やっぱりなかなか先方のほうにも、なかなか中止だからといってそのままというわけにはいかない部分がございます。それを、その点を踏まえてちょっとつながりを持たせていただいている部分がございます。

○奥田委員 つながりって何に使うんですか、行くんですか、また、こんなコロナのときに。

(発言する者あり)

○奥田委員 つながり、何するんですか。

(発言する者あり)

○奥田委員 何で、コロナの中で行けへんやないですか。各地に行くんですか、そのフェスタのところへ。だって僕、以前、あれ、何十回大会だったかな、何回か大会のとき、自治連合会の40周年だったかな、それを尾鷲節コンクールの1日目の夜にやるということで、民謡フェスティバルをやったことあるんですよ、これ、完全なボランティアの話で、僕ら何人かでね。そのときだって、これは施主さんのところへ行くのにも、あれやで、ボランティアで行ったで、自分の自腹で、お願いしに、電話したりとか、直接行ったところもあって、何軒か行ったけれども。ほんなもん自分でも……。そんなので、この前の年から、これ、行かへんのに何で、どんなつながりなんですか。どんなお金を使うんですか、それ。この40万もこんな。おかしいやないですか、そんな……。

こんな税金の使い方ないですよ、ほんな。

○南委員長 答弁をいただきます。

○世古商工観光課係長 実際、今年については、訪問させていただくというのは取りやめております。文書のほうで何度か御案内のほうをさせていただいている分になります。

○奥田委員 じゃ、内訳してください。その文書のお金の内訳とその40万の、民謡フェスティバルのお金と内訳、金額を教えてください、この40万の。

○世古商工観光課係長 申し上げます。

民謡協会への広告代が2万円、それから案内文書、中止案内、それから大会開催案内、次年度の大会開催案内について10万6,968円。10万968円です。あっ、10万6,968円ですね、10万6,968円。消耗品等、コピー用紙等を購入させていただいた分が5万186円、振込等の手数料が1,430円、それから案内文書の印刷代として1万3,514円等で、トータルが10万ぐらいになると思うんですけども、20万ぐらいになると思うんですけども。今……。

○南委員長 残りの20万の、お願いします。

○世古商工観光課係長 残りの20万は、事業、今年度終了後の精算とさせていただきます。

○南委員長 えっ。

○世古商工観光課係長 精算します。

○南委員長 ちょっと今のところ、もう一回。

○森本商工観光課長 その20万の部分に関しては、実績報告という形できちっと報告させていただく形を取らせていただきたいと思います。整理しまして、恐らく減額になると思いますので、使わなかった部分はしっかりと実績報告でさせていただきたいと思っております。

○奥田委員 もう最後にしようと思ったけどね。

いや、今回3月補正ですよ、これ。3月補正で最後の、これ、もう調整で減額していくわけでしょう。いつ減額するの、ほんだら、これ。ちょっとええ加減なこと言わないでください、ええ加減なことを。みんなほかのところもそうやないですか。もう今事業年度を見直して、最後の最後の3月の補正ということで。ほいで、これも早い段階から中止って分かっておったんやで、早う精算できるで、事業報告なんて出せるわけ、ほんなん。この後、20万、これ、僕が聞かなんだら、これ、20万そのままという可能性もあったんじゃない、これ、今頃言うて。3月補正ですよ、これ。

○南委員長 奥田委員さんの理解できます。この40万の減額ということで説明を受けたに、最後で20万また減額するって、あれ、ちょっと理屈合わんぞな、どこから考えても。もう一回ちょっと、納得できる説明してもらわな、今の説明は。できる。

(「委員長」と呼ぶ者あり)

○南委員長 いや、執行部のほうに聞いておるもんで。

(発言する者あり)

○南委員長　　ちょっと整理してもらわな、混乱したらまずいで、ちょっと。
暫時休憩します。

(休憩　午後　１時４６分)

(再開　午後　１時４９分)

○南委員長　　再開いたします。

　　今ただいまの４０万のほうは、若干説明不足があったということで、初めにもう一度説明をお願いいたします。

○森本商工観光課長　　説明が曖昧で申し訳ございませんでした。

　　必要額としまして、１９万５，０９８円が決算見込みという形でございますが、恐らく２０万４，９０２円の部分に関しましても不用額となりますので、合わせて４０万円という形で整理させていただこうと思っております。

○南委員長　　そういうことで。

○奥田委員　　分かりました。

　　でも、不用額で、これ、上がってきたことあります、これまで。見たことないで、見たことありますか、皆さん。尾鷲節コンクールの補助金で不用額で上がってきたって。

○世古商工観光課係長　　例年、出てきております。

○奥田委員　　出ておる。

○世古商工観光課係長　　はい。

○奥田委員　　不用額で上がってきておる。そうですか。僕がちょっと勘違いしておるのかな。不用額で上がってきたのを見たことないような気がするんやけど。

　　それで、この案内文書、中止文書で１０万９６８円だ。何でそんなにかかるの。施主さん、そんなおらへんで。何件あるのかといたら、１０軒か２０軒ぐらいしかないと思うので、施主さんに連絡すりゃ、それでええと思うけど。

　　それと入場、百何十人でしょう。これ、電話でもええと思うし、８４円切手で送っても、そんな行くかな、１０万もしやへんで、これ。何で、これ、１０万もするん、これ。印刷代１万もするって、別に簡単な文書でええやないですか、そんな別にええ……。

○南委員長　　答弁をもらいます。

○世古商工観光課係長　　個人それから会派合わせて、全国に４００余りの関係者の方々がいらっしゃるんですけれども、その方々に案内文書を送付させていただい

ており、このような金額となっております。

○南委員長 他にございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○南委員長 ないようですので、補正予算の審査は終了いたします。

続きまして、議案第 11 号、令和 3 年度尾鷲市一般会計予算の議決についてのうち、商工観光課の所管の説明を求めます。

○森本商工観光課長 それでは、議案第 11 号、令和 3 年度尾鷲市一般会計予算の議決についてのうち、商工観光課に係る御説明をさせていただきます。

まず、歳入についてでございます。

当初予算書の 22 ページ、23 ページを御覧ください。

13 款使用料及び手数料、1 項使用料、4 目農林水産業使用料 274 万 3,000 円、そのうち当課に係るものが、2 節水産業使用料のうち、深層水使用料 200 万円と総合交流施設使用料 1 万円でございます。どちらともアクアステーションにおける使用料でございます。

次のページを御覧ください。

5 目商工使用料、1 節商工使用料 1 万円は、あすなろ工房使用料でございます。

次に、予算書の 36 ページ、37 ページを御覧ください。

15 款県支出金、3 項委託金、2 目商工費委託金 97 万 2,000 円でございます。こちらは、熊野古道沿いトイレ等の維持管理に係る近畿自然歩道維持管理委託金 77 万 2,000 円と、三木浦マリンパークの維持管理に係る県単漁港環境整備事業委託金 20 万円でございます。

次に、予算書の 44 ページ、45 ページのほうを御覧ください。

20 款諸収入、5 項雑入、1 目雑入、2 節総務費雑入 2,250 万 2,000 円のうち、次ページにお進みいただき、D O N E T 負担金 82 万 9,000 円のうち、21 万円が海洋深層水推進事業に充当するものでございます。

次に、5 節商工費雑入 19 万 6,000 円で、三木里海水浴場 P R 用ポスター作成地元負担金 1 万 7,000 円は、ポスター作成に係る負担金でございます。

まちかど H O T センター電気使用料 17 万 9,000 円は、観光物産協会の電気等の使用料収入でございます。

以上、歳入についての説明でございます。

続きまして、歳出について御説明いたします。

予算書の 222 ページ、223 ページのほうを御覧ください。

5 款農林水産業費、4 項水産業費、5 目海洋深層水事業費につきましては、本年度予算額 1,431 万 1,000 円で、前年度比 579 万 9,000 円の減額です。財源内訳は、その他特定財源である深層水に係る使用料等 222 万円、一般財源 1,209 万 1,000 円でございます。

細目海洋深層水推進事業の主な予算につきましては、需用費 632 万 1,000 円で、消耗品費 150 万円はアクアステーションの保守点検に伴う脱塩装置等の消耗品で、光熱水費 305 万円はアクアステーションの電気代が主なものでございます。

委託料 707 万 2,000 円は、水質検査委託料 184 万 8,000 円、海洋深層水施設機器保守点検業務委託料 462 万円が主なものでございます。内容につきまして、課長の補佐のほうから説明させていただきます。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 主要施策の 69 ページを御覧ください。通知いたします。

それでは、海洋深層水推進事業につきまして説明いたします。

本事業は平成 18 年より、海洋深層水を生かして、地域産業の活性化を図ることを目的として事業を実施しております。

令和 3 年度の事業といたしまして、利用促進事業では分水等に関する新しい試みを実施するとともに、あらゆる媒体で情報発信や、産業利用では利用協議会への参加を促進し、一つでも多くの商品にブランドマークを御利用いただけるために事業を進めていきたいと考えております。

また、アクアステーションにおきましては、海洋深層水の安定分水ができますように、適正な管理運営を実施してまいります。

予算の主なものといたしましては、需用費では海水淡水化装置等の消耗品や電気代、送水ポンプなどの修繕などで 632 万 1,000 円、役務費では灯浮標の点検などで 67 万 4,000 円、委託料として海洋深層水の水質検査や機器保守点検業務などで 707 万 2,000 円です。

令和 3 年度の事業といたしましては、合計で 1,431 万 1,000 円で、財源といたしましては、海洋深層水の使用料 200 万円、総合交流施設使用料 1 万円、防災科学技術研究所からの灯浮標に係る費用負担といたしまして 21 万円を見込みまして、残る 1,209 万 1,000 円を一般財源としております。

以上でございます。

○森本商工観光課長 次に、予算書の 226 ページ、227 ページのほうにお戻

りください。

予算書の中段の６款商工費、１項商工費、２目商工振興費につきましては、本年度予算額９５５万円で、前年度比８万１,０００円の減でございます。財源内訳は国県支出金１３６万２,０００円、その他特定財源１万円、一般財源８１７万８,０００円でございます。

細目商工振興事業につきましては、予算額６２４万５,０００円でございます。主なものといたしましては、負担金、補助及び交付金５８３万５,０００円です。

次のページを御覧ください。

補助金、尾鷲市中小企業融資信用保証料補給金９１万４,０００円、尾鷲商工会議所及び中小企業相談所補助金が３６０万円などでございます。内容につきまして、課長補佐のほうから説明させていただきます。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 主要施策の７０ページを御覧ください。通知いたします。

それでは、商工振興事業について説明いたします。

本事業は、尾鷲商工会議所など関係する団体と連携し、市内の小規模事業者の経営支援を実施するとともに、地域経済活性化に関係する事業に関しまして補助金を交付するものです。事業といたしましては、中小企業融資信用保証料補給金や尾鷲商工会議所及び中小企業相談所補助金などを交付するとともに、尾鷲伊タダキ市などへも補助金を交付しております。

主なものといたしましては、負担金補助及び交付金といたしまして５８３万５,０００円、令和３年度の事業費といたしまして合計で６２４万５,０００円であり、財源といたしましてはその他特定財源で、あすなろ工房の使用料１万円を見込み、それ以外を一般財源としております。

以上です。

○森本商工観光課長 予算書の２２８ページ、２２９ページにお戻りください。

細目産業開発促進事業につきましては、予算額３３０万５,０００円です。主なものといたしましては、負担金、補助及び交付金２４７万４,０００円でございます。

次のページを御覧ください。

食の産業開発促進事業補助金２００万円の補助金でございます。内容につきまして、課長の補佐のほうから説明させていただきます。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 主要施策の７１ページを御覧ください。通知い

たします。

産業開発促進事業は、事業者や関係する団体と連携いたしまして産業開発を推進するとともに、販路開拓を行い、地域経済の活性化を図ることを目的として事業を進めております。令和３年度の事業といたしましては、新型コロナウイルスの拡大に伴いまして、商業を取り巻く社会情勢は大きく変化しておりますことから、商品のマーケティングを実施するとともに、コロナ禍にも対応した商品ウェブ商談会などの事業を行うとともに、終息した場合にこれまでどおり対面で販売拡大も行いたいということで、この二つを軸に事業を進めてまいりたいと考えております。

予算といたしましては、物産展等への参加などの旅費として５２万５,０００円、負担金、補助及び交付金といたしまして、スーパーマーケット・トレードショーへの出展負担金や食の産業事業への補助金などで２４７万４,０００円。令和３年の事業費といたしまして合計で３３０万５,０００円、財源といたしましては、地方創生推進交付金の１３６万２,０００円を見込み、それ以外を一般財源と考えております。

以上です。

○森本商工観光課長 予算書の２３０ページ、２３１ページにお戻りください。

３目観光費、本年度予算額４,８４６万８,０００円で、前年度比２２７万円の増額でございます。財源内訳は、国県支出金４３５万１,０００円、その他特定財源４５１万６,０００円、一般財源３,９６０万１,０００円でございます。

細目観光振興事業につきましては、予算額２,０２８万６,０００円です。主なものとして、需用費１０３万２,０００円のうち印刷製本費８６万７,０００円は、観光パンフレットの増刷でございます。原材料費３５万につきましては、向井黒の浜へのアサリの放流を行い、市内外の皆様へのにぎわいにつなげていくものでございます。

負担金、補助及び交付金、予算額１,８４１万６,０００円のうち、主なものとして、負担金、東紀州地域振興公社負担金２８０万円で、県及び東紀州５市町が連携して観光客誘客を進めるため、国の地方創生交付金を活用し、法人化された東紀州地域振興公社による観光ＤＭＯの推進事業でございます。

次ページのほうを御覧ください。

補助金におきまして、観光物産協会補助金９７１万７,０００円、イベントへの補助として、尾鷲節コンクール２００万円、おわせ港まつり補助金２００万円などとしており、集客交流人口の拡大につなげていくものでございます。また、新たに

市内の観光スポットにおいて、従前から立木の剪定など、日頃からボランティアの活動を行っていただいている団体への支援といたしまして、集落周辺整備事業補助金を創設させていただいているところでございます。内容につきまして、係長のほうから御説明申し上げます。

○世古商工観光課係長 それでは、主要施策の72ページを御覧ください。

こちらは、おもてなし条例関連事業であります観光振興事業について御説明いたします。

観光振興事業につきましては、地域資源を活用した集客交流事業を推進し、観光施設や町なかでの滞留による交流人口の増加と地域経済の活性化を図るため、関係団体と連携した取組を行ってまいります。

事業内容についてですが、新たな観光振興補助金であります集落周辺整備事業につきましては、市民が主体的に取り組む景観をよくするための木の剪定、雑草木の刈り払い、地ごしらえなど、荒廃した里山の保全活動、森林整備に必要な経費に対して、予算の範囲内で補助金を交付するものでございます。ボランティアの皆様の活動を支援するもので、財源につきましては、みえ森と緑の県民税を活用させていただきます。事業費につきましては2,028万6,000円、内訳につきましては、国庫支出金といたしまして地方創生推進交付金140万円などで、それ以外の1,653万7,000円が一般財源でございます。

説明は以上でございます。

○森本商工観光課長 232ページ、233ページのほうにお戻りください。

次に、細目熊野古道活用事業につきましては予算額207万1,000円で、主なものは、土日祝日に来訪者の対応を行うおわせふるさとガイドの運営委託料47万1,000円とおわせ海・山ツーデーウォークの大会運営に係る委託料160万円でございます。

次に、細目観光施設管理整備事業につきましては予算額2,611万1,000円で、主なものにつきましては、需用費517万4,000円のうち修繕料300万円は、夢古道おわせをはじめ、各設備及び観光トイレ等の修繕料でございます。

役務費481万のうち、主なものは、所管する観光トイレの浄化槽保守点検手数料337万3,000円、夢古道おわせ空調機洗浄手数料81万円でございます。

委託料1,167万7,000円のうち、観光トイレ管理業務委託料123万7,000円をはじめ、三木里野鳥の小径、次ページにお進みいただきまして、馬越公園など各観光施設の管理委託料及び夢古道おわせ指定管理料934万4,000円

でございます。

14節工事請負費431万8,000円につきましては、内容といたしまして、夢古道おわせ空調改修工事242万2,000円、野鳥の小径看板設置工事164万7,000円、観光誘導看板設置工事24万9,000円のほうでございます。内容につきまして、係長のほうから御説明のほうを申し上げます。

○世古商工観光課係長 主要施策の74ページを御覧ください。

おもてなし条例関連事業であります観光施設管理整備事業につきましては、熊野古道の来訪者や尾鷲を訪れた観光客の憩いの場を提供するため、観光受入れ施設の充実を図り、町なか等での滞留による交流人口の増加、地域経済の活性化を図るものでございます。事業内容といたしましては、地域資源活用型総合交流施設の適正な管理運営、市内観光トイレ、公園等の維持管理でございます。

事業費につきましては、2,611万1,000円、内訳につきましては、県支出金といたしまして、みえ森と緑の県民税市町交付金164万7,000円などで、それ以外の2,306万4,000円が一般財源でございます。

商工観光課資料の資料1を御覧ください。

上の表は、14節工事請負費の内訳を示したものになります。夢古道おわせ空調改修工事、野鳥の小径看板設置工事、観光誘導看板設置工事でございます。

まず、夢古道おわせ空調改修工事につきまして説明いたします。

本空調は、平成20年の設置から13年が経過し、水漏れや大きな音がするため、運転を一時的に止めたりなどの対応をしているところでございます。今回、計5基あるうちの男女脱衣場1基ずつ、2基を改修するものでございます。積算額は242万2,200円となります。施工箇所については、下の図の赤で示した部分でございます。

次に、野鳥の小径看板設置工事につきまして説明いたします。

2ページを御覧ください。

利用者の安全確保のために、野鳥の小径入り口に公園全体を図示した看板を設置するものでございます。資料にございます看板写真は、倒れてしまった看板をくい打って応急的に設置したものでありまして、現在は、危険なので撤去しております。施工箇所は、一本松ふれあい広場から上がってすぐの散策路の入り口付近で、赤く図示したところでございます。積算額は164万6,700円で、財源は、みえ森と緑の県民税を活用いたします。

次に、観光誘導看板設置工事につきまして説明いたします。

3 ページを御覧ください。

経年劣化により記載内容が不明瞭となっている町なかサインを更新するものでございます。お示しした図の馬越の赤い①、馬越公園入り口から④、県道中井浦九鬼線までの4か所に設置するものでございます。写真は、現在設置してあります1から4の看板の状況でございます。積算額は24万8,437円で、財源は尾鷲みどりの基金を活用いたします。

説明は以上でございます。

○森本商工観光課長　　以上が商工観光課における令和3年度尾鷲市一般会計予算の説明でございます。御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○南委員長　　御質疑のある方、御発言をお願いいたします。

○楠委員　　予算のほうの45ページ、収入のほうですね。

毎回聞いているんだけど、45ページ……。三木里の海水浴場のPR用ポスター作成地元負担金、この前からもちっと聞いているんだけど、三木里は尾鷲市じゃないんですか。市の予算でやれば、わざわざ地元で何で負担金をもらってポスターを作るんですかね。これが、こいつが不思議なんですよ。三木里は尾鷲市じゃないということですかね、これ。

○森本商工観光課長　　決してそういうつもりはございませんけれども、三木里の地区と一緒に、両者と連携してポスターのほうを作成させていただきたいという、そういう思いを持ってさせていただいておると考えております。

○楠委員　　基本的に、三木里の海水浴場、立派な海水浴場がありますからね。結局、尾鷲市のPRにもなっているんだったら、わざわざ収入なんかなくても、尾鷲市の支出のほうで作ってあげる、地区と調整して1万7,000円もらうための事務を、人件費を考えたら何倍もかかっているわけですよ。そういうところをちょっと工夫したらどうなんですかねということが一つ。

次に、予算書の233ページ、集落支援、いろんな活動で支援していただくのは結構だと思うんですけど、これは市の全域なのか、ある特定の区域なのか、その辺のちょっと考え方をお願いします。

○森本商工観光課長　　PR、先ほどの御指摘の海水浴場のPRポスター分に関しましては、また三木里地区とまたお話を進めて、検討させていただきたいというふうには……。今後も検討させていただきたいというふうに考えております。

○世古商工観光課係長　　集落周辺整備事業につきましては、集落からおおむね3キロ圏内ということで想定しております。

○楠委員 集落から３キロ、半径３キロなのか、直径３キロか分からないですけど、どのようなイメージでその整備事業の補助金を出そうとしているのかというところをちょっともう一度確認したいです。

○森本商工観光課長 実際、三木里のほうで野鳥の小径のほうを整備させていただ……。ボランティアの方が整備していただいている部分、三木里の野鳥の小径のほうを整備していただいている部分がございます。

また、ツーデーウォークのほうで使わせていただいています水平道のところとがありますけれども、そういった箇所を、尾鷲の観光資源の部分をボランティアの方がちょっと整備していただいている部分がございます。その点について、箇所箇所という感じでは考えております。

○楠委員 ツーデーウォークのほうはツーデーウォークのほうの予算でできるのではないんですか。この補助金を活用しているということによろしいんですか。

○森本商工観光課長 実際、コースの選定に関して、実際、全てが全部整備できるわけではございませんもので、水平道のほうを例年、従前からずっと続けていただいて整備していただいている部分がございます。その点を踏まえて、想定の中に入っております。

○楠委員 ２３１ページの黒の浜に原材料としてアサリの放流ということがあるんですけど、一昨年でしたかね、予算１回切って、そのとき質問したときに、種の保存という発言があったんですよね。アサリの種の保存、保全をしなきゃいけないほど黒の浜に立派なアサリがあるのかどうかは別にしても、復活した理由は、多分、これ、委員長も話は出たと思いますし、市長も大事な浜だから何とかしなきゃいけないという思いでされたのかどうか、市長、ちょっと回答をお願いします。

○加藤市長 黒の浜のアサリの件でございますけれども、今、当初というんか、アサリの違いにしろ、何にしろ、ちょっと非常に難しいということだけれども、やっぱりずっとここから、以前からずっと続けているイベントでございますので、だから、商工観光課のほうに対して指示していますのは、そういったところを徹底的に探して、少しでもやっぱり黒の浜にアサリが戻ってくるようなところをきちんとやりなさいと、そういう指示をして予算化に向けたと私は理解しております。

○森本商工観光課長 種の保存という部分に関しましては、県内産のアサリという形を考えておまして、三重県のほうにちょっと相談しましたところ、やはり伊勢湾岸という形で、生育はやはりそういう形を尊重すべきというふうに伺っておりますので、三重県産という形を進めさせていただきたいと思っております。

○奥田委員　　すみません。予算書でいうと、最後のところ、２３４、２３５の工事請負費のところの中の野鳥の小径の看板設置工事１６４万で上がっていますが、この看板、確かに去年僕１月に、ここ、ボランティアの方がやるというので一緒に見たことあるんですけど。今年１月行ったらなかったんですよ。だから、これ、撤去しているんですね、さっき説明あったように。

これ見ると、２メートルと１メートルで１６４万って、こんなにするんですか。

○森本商工観光課長　　財源としまして、みえ森と緑の県民税を使う、木を使うという観点から、まず、そちらのほうの計画から入ったところがございます、やはり少し尾鷲の木を使ってという形で、装飾ではございませんが、やはり考えるあたりにそれを少し高価なものを、部分という形をちょっと考えさせていただいた部分はございます。

しかしながら、今後、やはり木を使うという形は、県民税を使う以上は必然なんですけれども、やはり設計の段階、実施のときに関しては整理をするべきかなというふうにはちょっと今考えているところでございます。

○奥田委員　　いや、それにしても、これ、２メートル、１メートルの看板１個作る、この看板も去年見ましたけどね。これ、１枚つけるのに１６４万って、ちょっと桁間違うんじゃないかと僕は思うんですけど。だって、森と緑の県民税を使うからそれでいいんだという考え方かもしれんけれども、でも、これ、節約したらほかにも使えるわけじゃないですか、森と緑の県民税は、ほかのところ、そうでしょう。それを考えたら、１６０……。高過ぎないですか、これ、こんなの、普通こんなですか。幾ら尾鷲の木を使って、当然木を使うと思うんですけど、１６４、僕ちょっと想像つかんのですけど、そんなものですか。

○森本商工観光課長　　高額な部分に関しましては、実は、看板の表示するアクリル板の部分が、非常にちょっと大きな額がちょっと占めているところでございまして、実際、支柱とか、そちらのほうにも確かに腐食防止の材を使ったりとかして高くなってしまいうんですけれども、やはり一番高額な部分は、案内板を表示するアクリル板の部分がちょっと少し高額になっているところでございます。

○奥田委員　　アクリル板でもこんなにするのかな。ちょっと試算をミスしているんじゃないかなという気がしてなんのですけど。でも、こんなするんやったら、花の名前とか名札とか結構ついておるけれども、そんなのももう朽ち果てておるとかね。

僕、この前も１月、久しぶりに行ったんですよ、迷うんですよ。もう看板がぐ

ちゃぐちゃになっておるもんでね。双眼鏡あるところあるじゃないですか、あそこ。そこへ行こうと思ったんやけれども、間違うて行ってしまったら通行止めになっておって、また大分引き返して行ったんやけど、また帰りもまた間違えて、看板何もないもんだから、だから、そういうふうな整備を先にしてやってほしい。こんなの、164万もこんなのかけるんやったら、もうちょっとそういうふうな工夫してほしいなと思うんやけれども。

それと、232ページ、233ページにある委託料、三木里野鳥の小径管理業務委託料54万5,000円ってありますけど、これとのボランティアの方々がやっていることとの、さっきも楠さんあったけど、この集落周辺整備のこれの中に入っていると言いつたけど。この委託料との絡みというのはどないになっておるんですか、これ。ちょっとよう分からんですけど。

○森本商工観光課長 前段のほうのお話で、野鳥の小径でちょっと迷ってしまうとか、その点は、私どもも御指摘がございましたときに現地に行きまして、現状のほうを把握しておりますので、しっかりと対応のほうを考えていきたいと思っております。

三木里野鳥の小径の管理業務委託なんですけれども、区のほうとちょっとさせていただいておる部分がございます。先ほどもボランティアの方が入っていただけて部分がございます、やはりなかなかこの54万5,000円の中の委託料の中でできない範囲、ちょっと大きな木になってしまったり、作業量が多い部分がどうしても出てしまうところがございまして、ちょっとしっかりとした技術を持った方がやっていただいたほうがスムーズに進むというようなところがございます。

そこで、地区の方とボランティアの方が連携してやっていただいているところがございますので、私どもとしても、地区の方、ボランティアの方、商工観光課としてしっかりと連携を取った上で進めさせていただけないかというふうに考えております。

○奥田委員 最後にしますけど、じゃ、この委託料というのはこれかな、どう理解したらいいのかな。ちょっとした草刈りとか、そんな程度なんかだと、トイレを掃除したりとかね。

今ボランティアの方々がやっている、木を切ったりとかしておるじゃないですか、剪定したりとかね。その辺の尾鷲市との絡みというのはどういうふうな絡みなんですか。予算もないですよね。どういうふうに尾鷲市としては、野鳥の小径をボランティアの方々も含めて関わっていこうと思っておるんですか。

○森本商工観光課長 関わり合いにつきましては、今回、ちょっと新規でつくらせていただきました集落周辺整備事業補助金の負担をさせていただいております、やはりまず、今まで尽力していただいたこれまでの経緯がございますので、その点を踏まえた上で、今年度、お話をさせていただきながら、次の年、次年度に予算をお認めいただいた部分に関しまして、しっかりとお話を進めさせていただけないかというふうに考えております。

○南委員長 他にございませんか。

○上岡副委員長 ちょうど皆さん、野鳥の小径の応援をしていただいたので、私のほうからも少し質問をさせていただきます。

ボランティアで私も参加していますけれども、毎月1回、十数人がボランティア活動しています。看板も、ボランティア活動の一環で、倒れてしまいましたので要望を、地区を通じて要望をさせていただきました。

一つちょっとお願いがあるんですけれども、看板、内容なんですけど、もし変更できる部分があれば、ちょっと地区の方とか、あとボランティアの人間に文言の変更とか、どういうのがいいですかというの、もしできるのであれば聞いていただきたいというのが一つあります。

先ほど里山周辺の部分なんですけれども、かなりそのボランティア十何人が入って、きれいになっています、見違えるほど。ただ、シダが多くて、のり面なんかのシダも全部伐採しました。今度、シダのところに何か花を植えようという場合に、そういうその周辺整備を使えるのかどうか、ちょっとお答えをお願いします。

○森本商工観光課長 看板の設置に関しましては、既存のものをそのまま作って工事するという方向には考えておりませんで、しっかりと、安くないものでございますので、しっかりと地区の皆様のお話を聞いたり、関係者の皆さんも聞きながら、設計のほうに当たりたいと思っております。

次に、のり面の云々に関しましては、やはり財源も、みえ森と緑の県民税が使えるのかとか、そういったことも考えられますので、その点を踏まえて、しっかりと御相談させていただけないかというふうに思っております。

○上岡副委員長 あと、三木里は、やはり観光関連が多いんです。本年度も商工観光の方には、このコロナ禍ということでかなり皆さんに努力していただいて、注意看板であるとか、コロナ禍の防災、防御、一生懸命取り組んでいただきました。ただ、まだこれからも続きそうです、来年度も。

今、主要施策、これというのはないんですけど、主要施策をいろいろ拝見させて

いただいて、説明、言葉での説明ではコロナ禍というのはあったんですけど、この主要施策の中の目的とか内容の中に、コロナ禍とかというのがあまり出てこない、これはなぜなのでしょう。

○森本商工観光課長　商工観光課に所管するイベントも含めて、やはりコロナ、新型コロナウイルスの感染拡大の防止に関しては、もう全部、全てかかってくるというふうに認識しておりまして、主要施策のほうでちょっと表現できなかった部分に関しましては少し申し訳なく思っておりますんですが、全てにおいて、やはりコロナ禍を念頭に置いた上で実施するのか、どういった対策を取るのか、どういう手段を取るのかというようなものは、我々としても、当課としても常に考えておるところでございますので、その点、御理解のほうお願い申し上げます。

○上岡副委員長　ぜひそういう言葉で説明するだけじゃなくて、これほど皆さんが見る主要施策なので、このコロナ禍、こういうことをやりますよというのは、やっぱり必ず文章で残さないと、言葉はこのっきり、あと誰がしてくれるのかというと、私らが聞いたから言うとかしかないです。これは皆さん見てくれます。ぜひ入れられるんなら入れてほしいというのがお願いです。

看板のことなんですけれども、もう一度。

今まで、この1年ずっとやってきて、行くまでの看板も、私も何回も歩いて、矢印の看板とか何回もお願いして、ちょっとずつ、ちょっとずつはよくなっています。歩く人も多くなってきました。もっともっと、今もうびっくりするぐらい、今度、オープンウォーターが野鳥の小径から全部見えるぐらいに、きれいになりました。ぜひその工程、オープンウォーター、浜に応援に入れなければ、野鳥の小径から双眼鏡もついています、見えるので、ぜひ看板のほうももっともっと分かりやすいように努力をしていただけるようお願いしておきます。どうですか。

○森本商工観光課長　景観に関して、三木里のところに限らず、野鳥の小径に限らず、尽力していただいている皆様がいらっしゃって、非常に感謝しているところでございます。

やはり案内板に関しましては、やはり初めて来た人に分かりやすいようにするというのは、十分分かっております。理解しておりまして、全て一遍にというのはなかなかできないかも分かりませんが、今回ちょっと上げさせていただいてます熊野古道の案内看板もそうですが、順次追って、可能な限りでちょっと対策させていただきますので、御理解のほうをお願い申し上げます。

○上岡副委員長　最後に。

まだまだコロナ禍が続きます。ぜひ再度、商工観光課の手助けを三木里のほうに
よろしく願いしておきます。

○三鬼（和）委員 2目商工振興費の産業開発促進事業の330万5,000円、
これは、主要施策の中に載っておるんですけどね。まず、ずっとコロナ禍で、販路
開拓支援であるとかマーケティング等販売拡大支援になっておるんですけど、これ
とセットで、毎回、食の産業開発促進事業補助金が200万かな、金額もあれで、
これ、もう長いこと何年もこういった事業をやられておるんですけども、どうで
しょうか、一度、これらの食の産業開発促進がどういう形になったかというのを、
一遍、まとめというのもする時期に来ておるのではないかなと。お願いだけしてい
くというのか、状況に合うように使っていただいている、補助しておるというんか、
それも含めて、一遍、費用対効果的に御検討する時期に来ておるのではないかなと
思うんですけど、その辺についてどう考えておられるのか。

それと、次の観光振興事業の中の、ああ、すみません、観光集客……。ちょっと
待ってください。集客事業じゃない、観光施設管理整備事業の中の、夢古道おわせ
指定管理料934万4,000円について、今回あんまり、今回って毎回そうなの
かな、中身というのは明記されていないんですけど、我々も調理室を造ったりとか
として、こういった形というんですか、最近、コロナ禍でもあって休んだりとかい
ろいろやられておるんですけど、そういった形で、こういったような経営の主眼に
なっておるんかどうかというのもちょっと心配なところがあって、何かな、消毒液
か何かを売って別収入をすとかってネットを見たらの載っておったんですけど、
大変な時期も迎えておりますもんで、もう少しその辺は今年の戦略、去年から今年、
新年度にかけての戦略について、こういった話合いをしたんかということもちょっ
と紹介してほしいなと思うんですけど。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 それでは、私のほうからは、産業開発促進事業
のことにつきまして御報告させていただきます。

特に、前回からも委員のほうからも御指摘ございました、いわゆる産業開発で食
の産業の部分で、相当もう年がたってきているであろうというような御指摘もある
中で、毎年毎年新しい商品のほうの作り込み、またブラッシュアップのほうをずっ
と続けてきたという経過がございまして、それに関しましては、また決算である
とか、そういったときにはこれまでの振り返り、今実際商品となったものなども含め
て御紹介できればなと考えておりますし、実際、私どものほうも新商品をずっと毎
年毎年作っていけば、それで済んでいくものではないというふうに考えております

し、特に今回はコロナということもございまして、いわゆる外に売り出していく力をさらに強くしなければいけないというふうに考えております。

その中では、こちらのほうにお示しさせていただきましたウェブ商談会であるとか、さらに、いわゆる都市部の方がどのようなものを求めているのか。今製造している商品は、これで本当にいいのかも含めたマーケティングも含めて、今年度は食の産業という形で事業のほうを進めさせていただきたいと。

今後は、いわゆる非対面式の通信販売事業であるとかというのはまだまだ伸びてくると思っております。そういったところは、商工会議所であるとか観光物産協会とも、今年度もお話をさせていただいております、通販サイトを構築するなど、そういったところを協調しながら事業のほうを進めてまいっている状況でございます。

○世古商工観光課係長 それでは、夢古道の部分についてですけれども、クラウドファンディングのお話かと思えますけれども、ヒノキスプラスという手の消毒ですね、これをクラウドファンディングで目標１００万円ということで夢古道のほうでやっていただいております、目標額の１００万円は、３月１６日、今日の午前９時時点でもう達成しております、今２００万円の目標に増額して、まだ募集しているような状況であります。

それから、夢古道との新たな、コロナ禍における新たな展開ということで、実際、何度か言わせていただいて、お話はさせていただいておりますところであるんですけれども、地区の、地域のむかい農園さんであるとか、そういったところの地区の方々と一緒に、こまこいたくあんであるとか、そういった新商品の開発であるとか、ほかにも考えていらっしゃることは多数聞いております。

ただ、まだ確定したものではございませんのでここではちょっと控えさせていただこうかと思えますけれども、いろいろと新たな展開というのを考えているような状況でございます。

以上です。

○三鬼（和）委員 食の産業開発促進事業補助金につきましては、機会がありましたら、新しくこれで開発したりとかというのを、そういうようなのも一遍まとめというんかな。

それと、コロナ禍の中で、特に食べ物に関しては、食べ物のレシピであったりとか、商品であったりというのは非常にSNSでヒットしやすいところがありましては、私のような素人がやっておっても、インスタなんかは１００以上のいいねがつ

いてきたりとかというのがあって、どこの店かとか、どういうものかというのがありますので、ちょっとやっぱりそういったことも含めて市内の戦略というんですか、そういつてSNSへ載りやすい商品は何かということ踏まえて、やっぱり販売促進につながっていくというんか、新製品の開発につながっていくというような取組というの肝要ではないかなと思いますので、こういった全般の、一度、取組、長年やってきたやつを、一応また分かるような形で我々にも、議会のほうにも一遍示してほしいという。

夢古道につきましては、我々、バイキングにしてでも今後どうなのかということも知りたかったので、指定管理料の内訳というんか、これをあつたら資料で欲しかったわけなんですけど、戦略的にはバイキングをスタートして、厨房が要るということで厨房を造ったりしてしよる中で、ちょっと時代が逆行してきたというか、コロナ禍とかなのでバイキングを止めざるを得なかったりとか、価格のもこれでいいのかという形の中で、非常に大変な指定管理の中でも部分になってきつつあるのではないかなと。

ただ、風呂とともに、温浴施設とともに上の古民家というのはセットの指定管理であるということから、やっぱりその辺のことをやっぱり我々議会も一緒になって、どのような形の指定管理がいいのか、地域として、集客としてどうなのかということも我々もまた議論できる場があればしたいと思うので、この辺については、また次の機会でもいいですので、詳細についてを、今どういうところが強みがあって、どういうところが弱いということを含めて、議会のほうにも示されるべきではないかなと思いますので、その辺についてはどうですか。

○南委員長 課長さん、今の指定管理料の話なんですけれども、今回、特に指定管理料の内訳の資料は、添付は求めていなかったんですけれども、できたら、934万4,000円についての内訳も併せて教えていただきたらと思います。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 食の産業につきまして御報告させていただきます。

先ほど委員がおっしゃられたように、まさに信頼する方からの情報、SNSというものは、新しい媒体としてもここ何年来、インスタグラム、フェイスブック等ではやっておりますので、そういった部分含めて、来年度にそれら商品、食の産業で新たにできてきたものであるとか、ブラッシュアップされた商品のCMを作っていければなというふうに思っております。

内容に関しましては今後詰めていきますが、いわゆる30秒で商店の状態であつ

たり、生産現場であったり、商品の詳細が分かる、30秒で分かるようなものを新しく作っていきたいなと思っておりますので、またそれらができましたら御報告を差し上げたいと考えております。

○三鬼（和）委員 その部分については、政策調整でもLINE等も進めておるということで、ヒットするところが多い部分を、ふるさと納税にしてでもSNSで上手にヒットしたというのが今増える要因の一つにもなったということがありますので、やっぱり地元業者を応援するという意味では、その辺を行政が上手に仕掛けを考えてあげるというのは大事なことはないかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

○森本商工観光課長 委員おっしゃられております今積算の、委員長のほうからも御指摘ございました、指定管理のちょっとお手元のほうにちょっと持っておりますので、お示しちょっと後日させていただきませんかでしょうか。

○南委員長 いや、後日でなしに、今予算審査やで、できたら審査中に資料は…。

○森本商工観光課長 分かりました。

○南委員長 提出していただくようお願いします。

○森本商工観光課長 分かりました。

○南委員長 他にございませんか。

○楠委員 ちょっと余談になっちゃうとみんなに笑われちゃうんですけど、資料の1ページ、夢古道の改修の平面図ありますよね。この平面図って、今はもう増築されているから変わっていますよね。変わっていない。そういうところをちょっとふだん気をつけないと、いつまでたっても古いものを使っているというのはさ。

○森本商工観光課長 申し訳ございません。ちょっと古い図面をちょっと使わせていただいたんですが、位置としては、更衣室の位置としては変わっておりませんので、申し訳ございません。

○南委員長 どこが古いの。

（発言する者あり）

○南委員長 どこが古いんやって。

○奥田委員 すみません、予算書の222、223の、皆さん聞かれるかなと思ったけど、今、海洋深層水のところ、深層水推進事業、1,431万1,000円ということで、昨年度、今年度か、今年度の当初予算では2,000万超えておったんやけれども、この減額の理由、説明あったかな、さっき。ちょっと教えてもらえ

ませんか。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 減額の大きな理由といたしましては、ストレーナーが……。ストレーナーといいまして、止水してきたときにお魚であるとか、カニとかが引っかかる、汚れたもの、汚れたものではないですね、そういった動物を取り除くストレーナーというものがございまして、それが昨年壊れたということで取替え工事を行わせていただいたのが400万円強ございました。

それと、小さくはなりますけれども、来年度は、今年は灯浮標の清掃という作業があったんですけれども、今年はそれが無いということも併せて減額になったということでございます。

○奥田委員 分かりました。

ほうたら、ちなみに、これ、事業費としては1,400万円やけど、今直営ですよ、会議所には委託しているわけじゃないので。これ、人件費も含めたら、この深層水事業というのは大体幾らぐらいになるんですか、今。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 すみません。前々回のちょっと委員会のほうで、全体費用で大体どのぐらい減額されたよというような説明をさせていただいておるんですが、大変申し訳ございません、今ちょっと手元に資料がございませんので、またそのときの資料をお渡しさせていただければと思います。

職員も、年齢によって多少やはり差がございますので、去年よりは今年のほうが費用のほう、いわゆる人件費のほう、ちょっと若い職員が行っておりますので少なくなっていると思いますし、いわゆるその前の指定管理をしておるときに比べると人の数も変わってきておりますので、相当そのところからは減額されてきておるといふふうに認識しております。

○奥田委員 ほんたら、ちょっと教えてくださいよ、それ、今幾らぐらいかというのかって。

それと、もう一点、ちょっと予算書とは直接関係ないかもしれんけど、先日、マルシェってオープンしましたでしょう。僕ちょっと気になるの、その辺、市としての関係、ちょっと教えてほしいなと思うんですけど、どんな感じなんですか、これ。

○南委員長 その他のほうやで、議案審査からお願いします。

○奥田委員 気になったのは、夢古道おわせの指定管理料が、さっきの話やと934万あって、今回、その空調の改修が242万かな、あって、1,200万近くあるわけなんですよ。その近くに民間というか、がやって、そのバランスって僕どうなんかなと思うたもんで、ちょっとお聞きしたんやけれども。すみません。ち

よっと予算と関係ないかもしれんけど、どんな関わり。

○森本商工観光課長　先日オープンしていただいたマルシェの事業所様に関しましては、確かに取組としては、すごい魅力ある取組というふうに認識しております、我々としても情報共有という形で代表の方とお話を進めたり、いろいろ連携していく部分というのはあるんじゃないかというふうには捉えております。ただ、個人さんがちょっとやられておるといようなお話も聞いておりますので、その点踏まえて、しっかりと代表の方とお話をさせていただきながら進めさせていただけないかと思っております。

○奥田委員　予算としては、別に何もないということですね。

ただ、この前13日、僕行きましたけどね。市長も副市長も課長も行かれていたと思うんやけれども、それだけ皆さん関心あると思うもんで。

だから、そこら辺の夢古道との僕ちょっと兼ね合いとか非常に気になるもんで、一方は1,200万ぼーんと出しておいて、すぐ近くにあるこういうところは1銭も出していないというこのバラ……。その辺が不公平感がないようにちょっとまたしてやってほしいなと思うんやけどね。難しい問題ですけど。よく情報共有ですか、ということなんですね。情報共有ってどういう意味……。

○森本商工観光課長　取組がすごい、この前も行かせていただいたときにも、すごいたくさんの人数の観客の方が、来客の方がいらっしゃって、すごいにぎわっておられました。ですので、今後、いろんな火力の発電所跡地の話もあります。そういった形もありますので、市としても代表の方とは情報を共有しながら、連携を密にさせていただけないかなというふうには思っておるところでございます。

○柳田商工観光課長補佐兼係長　すみません、ちょっと一つ、今からファイルのほうを通知させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○南委員長　はい。

○柳田商工観光課長補佐兼係長　今通知させていただきましたのは、以前、委員会のほうで海洋深層水の、いわゆる指定管理と直営になったときの差金はどのくらい出ているんだというような御説明を差し上げたときに使わせていただいた資料でございます。

簡単に説明させていただきますと、前回、このときは工事費というところで、1,500万円、すみません、1,500万円ほどですね、1,600万円ほど灯浮標の関係がございましたので、それを差し引いた形でいきますと、指定管理であったときに比べると900万程度減額されてきておるというところで、やはりその中でも

大きいのは給与の部分、職員手当の部分がかかなり減額となっておるというところと、あと、委託料であるとかが、下の事業を精査したときに、本当に必要最低限と言ったら語弊があるかも分かりませんが、いわゆる機器の保守であるとかを、年に２回のものを１回に減らしてみたり、そういったところの自助努力もありまして９００万程度減額になっておるというところでございます。

○内山委員　　２３１ページ、観光振興事業なんですけど、令和２年度に、委託料で観光パンフレット及びリーフレット作成業務委託料があったんですけど、今回なくて、その代わりに需用費の印刷製本費が増えているんですけど、この説明をお願いします。

○森本商工観光課長　　今回に関しましては、その委託料で作りましたパンフレットを増刷するという形を取らせていただくという意味で、印刷製本費のほうに計上させていただいておるところでございます。

○南委員長　　他にございませんか。

○森本商工観光課長　　先ほどの三鬼委員からの御指摘の部分の、あっ、委員長からも御指摘の指定管理料の積算の部分なんでございますが、平成３１年度に債務負担で取らせていた……。３年間の債務負担を取らせていただいております。

来年度、令和３年度に関しましては、９３４万４,０００円の指定管理料という形になっておりまして、積算というか、中身としましては、特産品開発業務に１２５万３,３９１円、情報発信業務として１９０万２０７円……。

(発言する者あり)

○森本商工観光課長　　施設管理費としまして５３４万９３８円で、合計が８４９万４,５３６円の積算となっております。消費税入れまして９３４万３,９８９円でございます。９３４万４,０００円の支出という形を取らせていただいているところでございます。

○南委員長　　分かりました。

今回、このコロナ禍の中でも、これで本当にやっていけるの。そこら辺の本当の折衝の話というのはなかったの。

○森本商工観光課長　　実際のところ、今もランチバイキングのほうがなかなか通常営業になっていないところ、お風呂のほうに関しても観客が、ごめんなさい、来客のほうが落ち込んでいるというのは事実でございます。

ですので、そういった形で、そのまま来年度も同様な営業という形にはなかなか取れないだろうというふうに先方もおっしゃっていらっしやいまして、お話し合いの

中で、先ほど係長からもちよつと御説明させていただいた部分で、やはり新しい事業を取り組んでいかないとという形で、今、除菌水のクラウドファンディングをさせていただいたり、地区の企業の方と連携した商品開発を売り出したりという部分がございます。

あと、また、あそこ、集客交流拠点というところで、やはり人が集まってくことの仕掛けという部分で、事業計画のほうはちょっと考えているところございまして、そういった形で計画が出来上がり次第、また議会のほうにも御報告させていただけないかなというふうには思っておるところでございます。

○南委員長 分かり……。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 また、夢古道おわせのほうでは、国からのコロナに関する対策の交付金であるとか、補助金であるとかも十分使っていくような中で経営の改善のほうを図っていくということも聞いております。

○三鬼（和）委員 ランチバイキングは市とは直接関係ないので、指定管理者が、業者が自分ところが委託というかな、やっておるんですけど、あれぐらいの厨房ですので、場合によってはテークアウト商品を作るとか、そういったこともできると思うので、コロナの国の補助とかがあれば、それをバックアップしながら下請作っておる……。下請というだな、業務で担当していただいた団体にもそういった形で仕事を提供できるということもあろうかと思しますので、やっぱりそういった取組も必要ではないかなと思うんですけど、その辺はいかがですか。

○森本商工観光課長 いい御提案でございますテークアウトの部分というのを、向こうの先方のほうも、夢古道側も考えているというふうには伺っております。ですので、ランチバイキングというスタイルがなかなか難しいというところの話の中で、食という形の部分でどういうふうに動けるのかというところを考えているところでございます。

○南委員長 他にございませんか。

○村田議長 市長もいらっしゃるのでぜひ聞きたいんですが、この深層水の事業ですね。これ、あさみややったかな、の問題はどうなっているんですか。

○加藤市長 この件については、交渉は暗礁に乗り上げていることは事実です。ただ、それに対して、暗礁に乗り上げているからといって、そのままほっておいたら大変なことになりますので、一定の期間を置きながら、要するに向こうの会社のほうにいろいろアポ取りながら、今までどおり海洋深層水の事業化というのを進めさせていただきたいという願いは、常に心がけてやっております、商工観光課のほう

に。そういう状況でございます。

○村田議長　それは分かるんですけれども、このままいろいろ交渉しておっても、
らちが明くんですかね、問題解決できるんですかねって。非常にもう何年もたっ
ていますから。いろいろ交渉してもなかなか難しいのではないかなと思うんですが、
見通しが立つんであればどんどん交渉していただきたいと思うんですけれど、こ
れ、私全く法律には無知でありますから分かりませんが、場合によっては訴
訟を起こすというようなことにもやっぱり踏み込んでいかなければならないのでは
ないかなと思うんですが、これは私の無知な考えなんですけれども、その辺のとこ
ろはいかがでしょうか。

○加藤市長　ですから、そういうことのために、向こうとのコンタクトは常にと
っておくという弁護士からの指示もございましたので、そのようにやらせていただ
いていると。ただ、交渉は大変難航しているということにつきましては、御理解い
ただきたいと思っております。

○村田議長　じゃ、難航しておるときに大変申し訳ないんですけれども、市長、
大体どの辺を目途に交渉を続けていくんですか。

○加藤市長　目安として、交渉をスタートしてから大体五、六年というところが
無難、いいんじゃないかなというような御指示もございまして、私もそういうふう
に思っております。

○村田議長　五、六年というと、今、交渉してから何年目ですかね。

○加藤市長　ですから、今年で3年、丸3年たっております。

○村田議長　ということは、市長、次に絶対勝たねばなりませんね、市長選挙で、
五、六年をめどにやっていくんですから。ですから、選挙前にでもやっぱりそうい
う交渉はきちっとどんどんやっていると思うんですけれども、もっと強力にやっ
ていただきたいなと。

私はもう全く素人なんですけれども、本当に5年も6年も引っ張られて、何もならん
のであれば、やっぱり訴訟を起こしてもいいんじゃないかなと私は思いますので、
皆さんの意見はどうかもしれませんけれども、ぜひそういったことを議会から私の
ようなあほうがそういうことを言うておったからということも頭に置いて、一つ強
力に交渉に当たっていただくことを強く求めておきたいと思います。

○南委員長　市長、答弁。

○加藤市長　ですから、議長がおっしゃっていることは非常に理解しております。
そのためにも、ある程度の時間を費やさないとちょっと大変難しいというようなお

話も聞いておりますので、十分、だから向こうとのコンタクトというのは常に常に取り付けながら、海洋深層水事業を向こうとしてきちんと行っていただきたい旨の要望、要請をしております。

以上でございます。

○野田委員　すみません、今3年ほど前からということで、市長がお会いしてもらっておると思うんですけども、それから何回かお会い……。向こうも経営者の方とは会っているんですか。どのような形になっているんです。それだけちょっと。

○加藤市長　私としては、向こうのトップに対して3回お会いしまして、こちらからお伺いしたのは1回ございまして、向こうからお越しになったのは2回ありましたと。

非常に向こうとしても非常に、何といいますか、トップの交代が当時いろいろございましたので、ちょうど2年前か2年半前のトップと、それから3年前のトップとはまた変わっておりましたので、まずは、向こうの会社のトップにお話をして、こちらからの要請状、要請をしております。

その後は、商工観光課のほうで常に、時宜的に、タイムリーにその交渉はきちんと欠かせないように指示しておりまして、そのとおりやっております。

○野田委員　やっぱり直近では2年半ぐらい前にお会いしたということですか。その後、担当課のほうで交渉しているというふうな話になるんですか。ちょっとそこら辺、ちょっと具体的に今は分からなかったもので。

○加藤市長　ですから、向こうのトップに3年ぐらい前から交渉に上がりまして、3回ほど、たしか3回だったと思いますけど、3回ほどお会いして、半年ごとにトップが変わっておりましたものですから、最終的に、向こうの新たなトップが来られたのは、たしか2年か、2年ちょっと少し前だったと思います。

そこであれしなから、あとは担当課長に、常にコンタクトを取りながら、担当、向こうの企業のほうに深層水の事業をやっていただくような要請を常に行っていると、こんな状況でございます。

○野田委員　要は市長は2年前に会ったのが、直近で会ったのが一番最後、ときだということで、あとは担当課のほうで、向こうの責任者というんか、そういう交渉経緯等はやられているんですか。

○加藤市長　この件は、先ほども申し上げておりますように、交渉は一方通行なんです、お互いに。向こうも譲りませんというのが現状です。ですから、我々としては要請を常に常にタイムリーに続けていると。それが今後の我々の対応にも大き

くつながってくるんじゃないかということでもって、私はずーっとそれを継続的に続けろということを商工観光課長のほうには指示して、彼らもそのとおりにやっております。

以上でございます。

○南委員長　　LDビバレッジの問題は、議長から指摘があったように、粘り強くじゃなしに、ぜひとも海洋深層水への事業を再考していただくように、強く要請をお願いいたしたいと思います。

それと、モクモクしお学舎についてでも、最近、関連が薄くなってきたように思うんですね。せっかく古江の学び舎を借りてやっておるんですけどね。当初の計画予定とは、現時点では随分ともう違った方向へ進んでいっておると思うんですね。

もうそういった意味では、やはりモクモクしお学舎についてでも、原点に戻って、せっかくパイプラインも塩作りのパイプラインも引っ張っていることでございますので、できる限り当初の目的に沿った事業展開は進めていただくよう、これも僕は要請する必要があるんじゃないかなというような強い思いがしておりますので、最近、何か関連が薄く薄くなってきているように思われますので、そこら辺についてはどうですか、課としての見解は。

○加藤市長　　当然、当時の話はお伺いしております。古江小学校の問題と、あえてそこへ海洋深層水の事業としてって。委員長おっしゃるように、やっぱり原点に戻って、やはり少しでもやっぱり海洋深層水の需要というのを高めることと、それと、もう一つは、やっぱりこういうところはこういうふうに使っているよというようなことのPR力というのは非常に重要だと思いますので、これは私も就任した当時、行ったきりでございますので、3年半ぐらい前に御挨拶に行ったきりでございますので、その辺のところも含めて、担当課のほうに対してもきちんと要請するように指示は出しながら、私も再度お伺いしたいなとは思っております。

○南委員長　　よろしくお願いします。

それでは、当初予算の審査は終了いたします。

最後に、報告事項が3点ほどありますので、まとめてお願いいたします。

○森本商工観光課長　　報告事項でございます。

飲食店支援プレミアム付商品券「どうまい尾鷲」食事券発行事業、尾鷲市プレミアム付商品券事業につきましての利用実績の御報告、また、SNSキャンペーンにつきましての実績の報告をさせていただきたいと思っております。

○南委員長　　お願いします。

○森本商工観光課長 内容につきまして、課長補佐、係長から御説明のほうを申し上げます。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 それでは、さっき、今通知させていただきました委員会資料５ページ、資料２を御覧ください。

 昨年実施いたしました二つの商品券事業に関しまして報告させていただきます。
 約４分程度でございます。

○南委員長 はい。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 まず、緊急事態宣言の発出により大きく影響を受けた飲食店等の事業の活性化を図ることを目的に実施いたしました飲食店支援プレミアム付商品券発行事業、いわゆる「どうまい尾鷲」お食事券につきましては、額面７，５００円、プレミアム率５０％、発行総額１億５，０００万、発行数は２万冊と販売をいたしましたところでございます。

 結果、８月３日から９月１０日までの間で完売いたしまして、その購入者で最も多かったのが市内在住者２，７５８名で１万７，４７８冊、金額にいたしまして８，７３９万円でございます。

 次のページを御覧ください。

 事業実績でございますが、利用期間を昨年１２月３１日までとして、店内での飲食以外にも、テークアウトでも御利用できるというものでございました。

 使用実績といたしましては、利用率が９９．６％、金額で１億４，９４０万３，０００円でございます。その詳細データを表としてまとめさせていただいております。この表は、事業種ごとに分けて、件数と支払金額などをお示ししているものでございます。件数といたしましては、バー・スナックが３１件と最も多く、全体の２５．２％、他にも居酒屋、喫茶店、割烹、焼き肉など飲食に関わる多くの店に御参加をいただいたところでございます。

 また、換券総額といたしましては、お示ししたとおりの額となっており、店舗の規模や取り扱う商品により単価が大きく異なりますので、事業種別の比較はなかなか難しいものでございますが、幅広く「どうまい尾鷲」お食事券を御利用いただいたものであると考えております。

 次のページを御覧ください。

 こちらが尾鷲市プレミアム付商品券の発行事業でございます。本券は発行総額３億円、発行冊数２万冊、額面１万５，０００円のプレミアム率５０％の地域応援券と、発行総額２億４，０００万円、発行冊数２万冊、額面１万２，０００円プレミア

ム率 20% の共通券の 2 種類を発行して、全体といたしまして、5 億 4,000 万円の事業を実施いたしました。

販売は 9 月 1 日時点での住民票を尾鷲に有する 1 万 7,286 名に購入引換券を発行いたしました。常設、仮設を合わせた 15 か所の販売所で販売を実施いたしました。

販売実績といたしましては、引換え販売では、地域応援券では 1 万 3,465 名、共通券では 1 万 2,427 名に販売をし、残部に関しましては抽せん販売を行い、12 月 10 日までに完売したところでございます。

利用実績に関しましては、10 月 1 日から先月の 2 月 28 日までの利用期間で、利用率は 99.7%、5 億 3,844 万円でございます。

ただ、これ、事業のほうはこの 2 月で終わっておりますが、換券のほうが一部まだ終わっていないという事業所様もお見えになるということです。最終的には、もう少し金額が増えるかと思えます。

その詳細データを表として次ページに取りまとめしております。

件数といたしましては、飲食が 104 件と最も多く、全体の 37.1%、ほかに事務用品であるとか雑貨、理美容、生活サービスなど、市民生活に欠かせない事業種、お店に御参加をいただきました。こちら、店舗の規模や取り扱っている商品、サービスによって単価も違うことですので、この表でなかなかその実績等を読み取ることは難しいと思いますが、ふだんの生活において必要不可欠である総合食料品などでの御利用が多かったものの、プレミアム率が高かったことから、ふだんは利用しなかったものや高額なものを選んで利用されていることも支払い合計で読み取ることができるのではないかと考えておりますし、事業者の皆様からも直接そのようなお声を頂戴してございます。

本事業の評価のために、事業所へのアンケート調査を実施させていただきました。アンケートは、市内の事業者 20 社を業種が偏らないように抽出させていただきました。聞き取り調査を行いました。

その結果、今まで利用していなかった人の利用につながったが 75%、今までよりも多めの購入につながったが 90%、今までより高めのものの購入につながったが 70%、今まで買われていなかったものの購入につながったが 65%、今まで市外で買物をしていたと思われるが、今回の事業で市内での購入につながったと思うのが 72%などございました。全ての項目で商品券事業が消費の底上げにつながったと過半数以上の事業者からお答えをいただいております。本事業の有益性を示しておる

と考えております。

また、自由意見にも、よい取組であった、再度実施してほしいなどの御意見をいただいた一方で、券の単価については、1,000円券での有意性や500円券のほうが使いやすかったなど、それぞれの御意見を頂戴することができました。また、換金周期が長いということも御指摘ございまして、資金繰りが大変であったというような回答も得ております。

これらの御意見に関しましては、今後実施予定の商品券事業等について、より使いやすく地域経済の活性化につながるように反映をさせていきたいものと考えております。

以上です。

○世古商工観光課係長 それでは、尾鷲市SNSキャンペーンについて御報告させていただきます。

資料4を御覧ください。

令和2年の9月から令和3年2月末まで、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムで旅行気分を味わえる「あなたにとっての尾鷲」写真を投稿していただき、毎月20作品に豪華商品をお送りしてまいりました。

まず、1、フォロワー数を御覧ください。

本市SNSの……。フォロワー数ですね、ごめんなさい、本市SNSのフォロワー数の状況ですが、8月11日の報道発表の時点から募集期間終了の2月26日時点まで、ツイッター402人、フェイスブック102人、インスタグラム648人、トータル1,152人増加いたしました。

月ごとの推移に関しましては、次の表のとおりとなっております。

次に、投稿数ですが、9月1日から2月26日の募集期間中にツイッター512作品、フェイスブック224作品、インスタグラム1,683作品、合計2,419作品を投稿していただきました。

月ごとの推移に関しましては、次の表のとおりとなっておりますが、合計値には、本キャンペーン開始以前のハッシュタグトラベル尾鷲をつけて投稿された投稿数を含んだものとしております。

資料にはございませんが、本キャンペーンに参加された方の実人数といたしましては、ツイッター102人、フェイスブック47人、インスタグラム361人の計510人で行いました。

これらの作品の中から、毎月20作品に商品をお送りしており、9月はイセエビ

2尾、10月は干物セット、11月は鍋セット、12月は刺身セット、1月はタイ
尽くしセットお送りし、2月の入賞者には、観光物産協会お勧めセットお送りする
ことになります。

なお、年間対象として、毎月の入賞作品120作品の中から10作品を選出し、
豪華商品をお送りする予定となっております。

最後に、入賞作品の一部を資料として添付させていただいております。御確認い
ただければと思います。

報告は以上です。

○南委員長 報告は以上です。特にただいまの報告でよろしいですか。

○野田委員 すみません。ちょっとこのプレミアム商品券のところの「どうまい
尾鷲」食事券のこの件数というのはどういうふうにつかむのか。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 今、野田委員のおっしゃられておるのは恐らく
6ページの表の事業種の隣の件数であると思われますが、これは店舗数でございま
す。

○野田委員 あっ、店舗数ね。

それと、すみません。そして、8ページのところで、最後のところ、最後の2行
目ですけれども、資金繰りが大変なので換金周期を短くしてほしい、返金時の取扱
いが難しいなどの意見を聞いた。資金繰りが大変なのでって、これ、商品券を商工
会議所に持っていきますよね。

(発言する者あり)

○柳田商工観光課長補佐兼係長 この換金システムでございますけれども、商工
会議所のほうは5日締めで、5日、15日、25日に締めておりまして、そこまで
に持ってきていただいたのをまた計算し直して、お振込を差し上げるとなると、い
つもであればレジですぐにお金が手に入ったものが、何日かからないとお金が手に
入らないというようなことがあったというようなお答えでございます。

○野田委員 一つだけ。

この「どうまいお食事券」なんか見ると、すし屋さんなんかすごい金額になって
いて、非常によかったんじゃないんかってこれを見ただけで思うんやけれども、そ
ういう肌感覚は聞いておりますか。どうですか。

○柳田商工観光課長補佐兼係長 私どもも、この商品券のほうを利用させていた
だいて、実に商店のほうでお話を聞かせていただきますと、やはりお支払いのほう
がほとんどこの「どうまい商品券」であったことであるとか、やはりコロナ禍とい

うことでもありまして、お客は減ったんですけどテークアウトが非常に伸びたなど、非常に好印象なお答えをいただいております。

○野田委員 ありがとうございます。

○南委員長 これで商工観光の審査を終わります。

委員会を閉じます。

(午後 3時12分 閉会)